

井守塚古墳群

1996.3

静岡県袋井市教育委員会
袋井地域環境厚生施設組合

井 守 塚 古 墳 群

1 9 9 6 . 3

静岡県袋井市教育委員会
袋井地域環境厚生施設組合

例 言

1. 本書は、静岡県袋井市愛野字地藏ヶ谷3092～1 外37筆で実施した井守塚（いもりづか）古墳群の緊急発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は、袋井地域環境厚生施設組合 管理者 袋井市長 豊田舜次を委託者とし、袋井市長 豊田舜次を受託者とし、袋井市教育委員会が発掘調査を実施した。
3. 発掘調査は、永井義博（袋井市教育委員会）が担当した。
4. 資料整理・報告書作成も永井が実施した。
5. 発掘調査に際して、民生部生活環境課の皆さん、袋井衛生センターの皆さんにはたいへんお世話になりました。ここに記して感謝いたします。
6. 本発掘調査に関する事務は袋井市教育委員会生涯学習課職員が行った。
7. 発掘調査資料はすべて袋井市教育委員会が保管している。

目 次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 調査経過	1
第3章 調査体制	2
第4章 調査方法	2
第5章 地理的環境・歴史的環境	3
第6章 遺跡の概要	4
第7章 まとめにかえて	6

写真目次

- 図版 1 (1) 井守塚古墳群遠景（北より）
(2) 井守塚古墳群全景（西より）
- 図版 2 (1) 井守塚古墳群全景（南より）
(2) ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影
- 図版 3 (1) 井守塚 1 号墳全景（西より）
(2) 井守塚古 1 号墳近景（東より）
- 図版 4 (1) 井守塚 1 号墳主体部（西より）
(2) 1 号墳出土の玉類（東より）
- 図版 5 (1) 調査を開始した 1 号墳
(2) 調査風景
- 図版 6 (1) 1 号墳頂部付近より出土した菊川式土器（高坏）
(2) 1 号墳主体部 玉類の調査状況
- 図版 7 (1) 1 号墳丘より出土した土器棺（弥生時代中期）
(2) 土器棺の完掘写真（北より）
- 図版 8 (1) 井守塚 2 号墳全景（南西より）
(2) 2 号墳主体部（南より）
- 図版 9 (1) 調査中の 2 号墳（北より）
(2) 2 号墳完掘写真（北より）
- 図版 10 (1) 2 号墳主体部調査状況（東より）
(2) 2 号墳主体部調査状況（北より）
- 図版 11 (1) 2 号墳主体部完掘写真（東より）
(2) 2 号墳主体部完掘写真（北より）
- 図版 12 (1) 井守塚 4 号墳全景（西より）
(2) 調査中の 4 号墳（北より）
- 図版 13 (1) 4 号墳完掘写真（東より）
(2) 4 号墳出土の須恵器（周溝より）
- 図版 14 (1) 土器棺（蓋）
(2) 土器棺（身）
- 図版 15 井守塚古墳群出土遺物
（1 号墳・4 号墳）
- 図版 16 周辺遺跡出土の土器(1)
- 図版 17 周辺遺跡出土の土器(2)
- 図版 18 周辺遺跡出土の土器(3)
- 図版 19 周辺遺跡出土の土器(4)
- 図版 20 周辺遺跡出土の土器(5)
- 図版 21 周辺遺跡出土の土器(6)
- 図版 22 周辺遺跡出土の土器(7)
- 図版 23 周辺遺跡出土の土器(8)

第1章 調査に至る経過

平成5年11月、民生部環境生活課より袋井市愛野地内の衛生センターの増設計画の相談が教育委員会に持ち込まれた。現地は袋井市・浅羽町・森野の一市二町で運営する袋井地域環境厚生施設組合の衛生センター（袋井市愛野2961番地）の西側の山で、かつては渋垂神社や南保育所から伸びる樹木のうっそうと茂った尾根であったが、古墳北側を明治22年の東海道本線（現在のJR在来線）の建設によって削り取られ、南側を昭和37年の東海道新幹線の建設によって断ち切られたため小さな山状に残された場所である。昭和54年に刊行された『静岡県埋蔵文化財地図（静岡県教育委員会発行）』によると周知の埋蔵文化財円墳5基の所在が示されている。さて、両者のたび重なる協議の結果、袋井市教育委員会は袋井地域環境厚生施設組合より委託を受けて平成6年度に発掘調査を実施し、同年中に資料整理・報告書の発行を行うことで事業を進めることとなった。しかし、平成6年度の当初に地元との土地交渉の遅れが生じたため発掘調査の契約が締結されたのは10月になってからであった。

第2章 調査経過

平成6年10月1日 井守塚古墳群発掘調査委託契約書締結。

10月25日～10月31日 重機により山頂への侵入路を設置し周囲の表土掘削作業。

11月1日 発掘器材を田原文化財倉庫より搬入作業を行う。

11月4日 作業員の手により古墳の表土除去作業を行う。

11月8日 作業員の手により1、2号墳の表土除去作業。

12月5日～6日 1号墳西セクションベルトの精査。調査後に除去する。

「井守塚古墳群発掘調査速報(1)」の提出。

平成7年1月9日 北側谷部の横穴群所在確認調査。

1月12日 1号墳主体部より管玉、ガラス小玉の一部が検出される。

1月18日 2号墳第2主体部の調査。遺物は出土しなかった。

1月19日 1号墳南裾付近より須恵器破片出土。

1月24日 衛生センター建設委員の現地視察。

2月1日 「井守塚古墳群発掘調査速報(2号)」の提出。

2月6日～9日 写真撮影用清掃作業。

2月13日～14日 4号墳南周溝より甕（ハソウ）と甕の胴部が出土。

2月20日 1号墳主体部と土器棺の実測作業。

2月23日 2号墳主体部実測作業。

3月25日 井守塚古墳群現地見学会を実施する。多くの地元住民の参加を得た。

3月31日 発掘調査委託契約完了。

平成7年4月3日～平成8年3月29日 出土品資料整理作業。発掘調査報告書の作成。

第3章 調査体制（平成7年度）

調査計画	袋井地域環境厚生施設組合		
調査受託	袋 井 市		
調査実施機関	袋 井 市 教 育 委 員 会		
	教 育 長	浅 井 通 男	
	教 育 次 長	長 沼 宣 男	
	生涯学習課長	鈴 木 雅 実	
	文化財係長	吉 岡 伸 夫	
	主 査	永 井 義 博	
	主任学芸員	松 井 一 明	
	学 芸 員	白 澤 崇	森 井 雅 彦
	経 理 事 務	鈴 木 寿 美 子	
調査参加者	寺田貞夫 諸井貞平 永田のお枝 安間しげ子 名倉保子 窪野啓子 窪野志奈子 仲根世始子 早川保子 山下悦子 船越スミ子 大庭京子 高木啓子		

第4章 調査方法

今回の発掘調査は、袋井市愛野地内の袋井衛生センター増設に伴い用地内に周知の埋蔵文化財である「井守塚古墳群」の4基の円墳が所在しているため事前の発掘として行われた。さらに、埋蔵文化財の所在の確認調査として山の斜面に横穴墓が存在が推定されたためトレンチ調査も行った。発掘調査に入る前に、重機で古墳の立地する山の上まで侵入路を設置するとともに作業プレハブ・仮設トイレの設営地も造成した。4基の古墳の周囲については重機で表土の除去を行い、古墳本体・周溝部分については作業員の手により土の除去を行った。遺構・遺物は大きく分けて弥生時代中期のものと古墳時代後期があり、一部では重複していたので慎重に新旧関係を検討しながら調査した。また、主体部の土は現地でふるいにかけて精査した。

遺構・遺物の実測については、全体図及び各古墳の墳丘測量図については㈱フジヤマによるラジオコントロール・ヘリコプター利用の空中写真測量から起こし、遺構詳細図（1／10）、遺物出土状況図（1／1）については調査員が手作業にて実測するとともにポイントを設定して写真測量図及びトラバースポイントとの整合性をはかった。

写真撮影については、中型カメラ（アサヒペンタックス6×7）1台と、小型カメラ（Nikon F401等）2台を使用した。また、空中からの垂直写真及び鳥かん写真についてはラジコンヘリコプターより6×6判カメラにより撮影した。現場で使用したモノクロフィルムはフジ写真フィルム株式会社のネオパンSSを、リヴァーサルフィルムも同じくフジ写真フィルム株式会社のフジクローム100ディライトフィルムを使用した。

第5章 地理的・歴史的環境

井守塚古墳群の位置する尾根は、小笠山から北西に伸びる丘陵の1つで、短く浅い丘陵が鋸刃のように、原野谷川によって形成された狭い平地に向かって開いている。

井守塚古墳群は、総数5基の小円墳からなる群集墳で、明治22年の国鉄東海道線（現在のJR線）建設に伴い丘陵の北側の先端が削られ、次いで昭和37年、東海道新幹線の建設にともない5号墳（当時は地蔵ヶ谷1号墳と呼ばれた）が発掘調査されている。それから、年月もたち無許可の土石採集など乱開発の牙はこの静かな丘陵をも襲い、古墳群の立地する丘陵は大きく姿を変えたが、かろうじて削り取られたガケには4基の古墳が残されていた。

井守塚古墳群は、遠江有数の墳墓・横穴墓の密集地帯のひとつである地蔵ヶ谷古墳群の東隣の丘陵上に位置し、丘陵尾根上の5基の円墳から構成されている。これは、地蔵ヶ谷・井守塚の両古墳群の密接した関係を想像させ、井守塚が地蔵ヶ谷の一支群とも言える立地状況にもなっている。

さて、「井守塚」を取り巻く高尾・愛野地区の群集墳はおおまかに分けると、丘陵上に立地する前方後円墳や円墳などの墳墓群と、丘陵の斜面に穿たれた横穴墓群から構成されるのを特徴としている。さらに墳墓は単独墳と群集墳が見られ、まるで古墳の博物館の様相を呈している。西側から代表的な古墳を見ていくと、まず単独墳としてはJR袋井駅の北西に位置する円墳として直径約20mの御所森古墳がある。この古墳はかつて地元民によって発掘され石室から大刀と6世紀中ごろと考えられる須恵器が出土している。さらに、もう1つの円墳として直径約26mの大門大塚古墳がこのあたりの盟主墳的な性格を持っている。この古墳もかつて地元民により発掘され石室より鏡、豪華な馬具、大刀、管玉、空玉、刀子など多数の土器が出土して6世紀中ごろの築造が推定されている。かつてはこれに加えて推定全長40mの帆立貝式の前方後円墳である狐塚古墳もあったが河川の侵食で失われてしまいその性格を知ることはできない。ただし、この狐塚古墳は昭和49年に袋井駅前地区土地区画整理事業及び中遠広域都市計画道路事業に伴い河川の侵食からかろうじて残された前方部の発掘調査が行われた。この調査では埋葬主体部、葺石、埴輪、周溝等積極的に古墳を証明するものは検出されていないが埴丘裾と考えられる地点を押さえ、また5世紀末ごろの須恵器も出土している。つづいて群集墳としては西から地蔵ヶ谷古墳群（墳墓・横穴墓）、井守塚古墳群（円墳5基）、渋垂神社裏古墳群（墳墓）、金山古墳群（墳墓・横穴墓）、愛野向山古墳群（墳墓・横穴墓）など丘陵ごとに分布している。地蔵ヶ谷古墳群は昭和37年に東海道新幹線の建設工事のために発掘調査が行われ、2基の円墳と5基の横穴墓が発見されている。つづいて昭和46年袋井市率南幼稚園の建設に伴い2基の円墳と22基の横穴墓が発掘されている。渋垂神社裏古墳群は丘陵上に7基の円墳が分布しているが未調査のため詳細は解からない。愛野向山古墳群はいくつかの支群に別れているが、このうち昭和60～61年に工場建設に伴い発掘された地区では古墳25基が調査され、古墳時代の土壌墓や竪穴住居跡、掘立柱建物跡なども検出されているといい、未調査部分には横穴墓も存在するといわれている。

第6章 遺跡の概要

今回の調査で検出された井守塚古墳群の遺構は、円墳4基と弥生時代の土器棺1基である。

「井守塚」の古墳時代の遺構については昭和37年に調査された1基（当時は地藏ヶ谷1号墳と呼ばれた）である木棺直葬の井守塚5号墳を加えて5基の円墳から構成されている。本書では今回発掘調査した4基の円墳について報告したい。また、横穴墓の存在も推定されたので丘陵斜面を試掘調査したが検出されなかった。また丘陵上の平坦面も平面調査したが住居跡・土壇などの遺構は検出されなかった。丘陵の周囲は土石採集によりあちこちが古墳近くまで削り取られて山肌がむきだしになっている。

弥生時代の遺構は1号墳のマウンド南側より検出された土器棺と墳頂部から出土した土器の入った包含層である。高坏などの形態より菊川式土器と思われる。

(1) 井守塚1号墳

1号墳は古墳群の最北端に位置する尾根上に築かれている。土石採集により古墳の北側・西側・南側が削り取られており古墳の正確な規模はつかみにくい。現状の地形測量図から推測すると、古墳の規模は直径約12m、高さ約1.4mの円墳で、木棺直葬の内部主体を墳頂部にもつ。墳頂上はかつては農作業用の小屋があったため平らに削平されていた。そのため、埋葬主体部は上部が削られ約20cmほどの高さしか残っていなかった。主体部は東西に主軸をとる長方形で長辺2.10m、短辺0.75mの掘り方をもつが一部攪乱を受けていた。主体部内には首飾りと考えられる玉類と土師器の破片が出土している。また、南側の墳丘裾付近から須恵器の坏身・坏蓋が出土している。

玉類（第10図の1～12）は管玉8点、ガラス小玉4点で被葬者の頸を飾る装身具であったと考えられる。計測値一覧表は実測図の横にあるので参照願いたい。

須恵器の坏身（第10図の3）は口径13.5cm、高さ4.7cm、最大径15.6cmで、内面にタタキ跡を残し、底部は回転ヘラ削りの後、ヘラ書きの二本の沈線が平行に引かれている。また、小破片の坏蓋で内面にタタキ跡を持つ須恵器が出土しており、前記の坏身に対応するものと考えられる。

（1号墳マウンド上土器棺墓）

1号墳の南側斜面より土器棺墓が検出されている。これは大型の壺形土器を転用しており、壺棺とも呼べるものである。これは尾根上の南斜面に土器とほぼ同じ大きさの土壇を掘り、その中に土器棺の本体（身）と蓋が埋納されていた。土器棺（第9図の1・2）は当初、現場では大形の壺形土器の上部が削平された残存率の悪い土器と考えていたが、取り上げて復元してみるとかなりのところまで復元できた。これは、土器棺が埋葬された後、土の重さ等で本体部分内へ崩れ落ちたものと考えられる。そして、その後に古墳が築造されたものである。

土器棺・蓋（第9図の1）も大型の壺形土器を使用して壺の胴部のさいだい径付近で切断され、底部側を上下逆さまにして土器棺本体の蓋として使用している。壺形土器の上部が欠損しているため全高は不明であるが、現存する器高は50.2cm、底径12.2cm、胴部最大径50.8cmを計

る。この土器も表面の剥落が激しく調整跡はわかりにくいが胴部はハケ状の工具で仕上げられている。現場では、この蓋は小破片となって土器棺本体（身）内に落ち込んでおり、現場の完掘写真及び図面には表わされていない。

土器棺・身（第9図の2）は大型の壺形土器を使用して壺の肩付近で叩き割って口縁部を取り去っている。口縁部が欠損しているため全高は不明であるが、現存する器高は40.2cm、底径9.6cm、胴部最大径43.8cmを計る。土器の表面は剥落が激しく調整跡はわかりにくいが胴部はハケ状の工具で仕上げられている。土器棺の本体内の土は全て水洗いしたが玉類等の出土品は発見されなかった。土器底部に木葉跡が残る。

（1号墳マウンド上出土弥生土器）

土器棺墓とは別に1号墳のマウンドからは土器棺より新しい菊川式（弥生時代後期）の高坏の口縁部・頸部の凸帯部分・脚部の端部と、同じく菊川式のコンパス文の残る壺形土器の肩部破片・底部破片が出土している。土器のタイプとしては市内鶴松遺跡等より出土する土器と同じものであろう。残念ながらすべて小破片のため図化できなかったが、古墳の盛土中または古墳を形成する弥生土器の包含層に含まれていたものと考えられる。

（2）井守塚2号墳

2号墳は、本調査地内では最高の標高に位置し、北に位置する1号墳に遮られることなく平野を望むことができるが、かつて新幹線の建設時に調査された5号墳よりは低い位置である。

2号墳の直径は古墳の土が流れて正確な数値は確認できないが推定約12mをはかる。また、埋葬主体部は北と南の長方形の2つの土壌が一部重複して検出されている。北主体部は長軸2.60m、短軸1.10m、深さ15cmを計り、南主体部は長軸2.70m、短軸1.10m、深さ40cmである。

両方の主体部とも遺構内からの出土遺物はなかった。墳丘上からは弥生土器小片とともに3号墳に関連すると思われる土師器破片も出土している。小破片のため図化できなかった。

（3）井守塚3号墳

井守塚3号墳は、1号墳と2号墳を結ぶ尾根上やや西側に位置したところに立地していたと考えられる。現状は土石採取によってマウンドのほとんどの部分を削り取られてその規模を知ることとはできない。周辺の崖付近を精査したが遺物等は検出されていない。

（4）井守塚4号墳

調査地東側の現衛生センター寄りに位置する。墳丘の大部分はすでに削り取られて周溝とマウンドの一部が確認された。正確な古墳の規模はわからないが、推定で直径約8mの円墳であったと考えられる。周溝南西部より須恵器が出土している。

須恵器の腿（第10図の4）は口径9.4cm、頸径5.4cm、高さ9.9cm、胴部最大径9.8cmで、頸部と胴部の接合にやや正確さを欠く。外面の文様は、頸部と肩部にクシ状工具によりやや雑な波状文が施されている。肩部の注ぎ口は内径1cmである。胴部に工人の指紋が残っている。

須恵器の壺（第10図の5）は同じく周溝より出土した中型の壺である。肩部より上、口縁部は欠損して全高は不明であるが、現存する器高は36.4cm、胴部最大径25.4cmを計る。外面の調整は器面全体に縦方向のタタキを施した後、胴部最大径より上はハケ状工具により横方向に

ナデが見られ、また底部はタタキ跡が格子状になっている。

これ以外にも、須恵器坏蓋の小破片2点、土師器高坏の脚の小破片1点が出土しているが細片のため図化できなかった。

(5) 北谷部の試掘

袋井周辺の群集墳では谷部分に横穴墓のある例が多いため北谷部の試掘調査をおこなった。遺構等は検出されなかったが、丘陵上からの流れ込みと思われる弥生土器の小破片とカワラケ破片、山茶碗や陶器破片などが確認された。

第7章 まとめにかえて

今回の調査は丘陵上の古墳、斜面の横穴墓を調査の中心と考えて発掘を計画した。しかし、試掘調査の結果、横穴墓は用地内には存在しないことが確認されたため丘陵上の古墳群の調査に全力を傾けた。その結果、古墳の位置こそ当初の予想とは若干異なったが、予定どおり4基の円墳と弥生時代中期の土器棺墓を確認することができた。今回の調査の成果をまとめると下記のとおりである。

- (1) 井守塚古墳群は丘陵の尾根上に立地する6世紀の円墳5基からなる群集墳であり、古墳の埋葬主体部は木棺直葬で副葬品の量は比較的少ない。
- (2) 西側の地蔵ヶ谷古墳群の被葬者たちを在地勢力の本流と考えると、井守塚古墳群の被葬者たちは、やや傍流といえるかもしれない。それぞれの生活域も、大門周辺を中心に考えられる地蔵ヶ谷古墳群の被葬者に対して、井守塚古墳群の被葬者は小野田周辺の低地で活動をしていた可能性がある。
- (3) 今回の井守塚古墳群の調査は、位置的に今までに発掘調査の行われた地蔵ヶ谷古墳群と金山古墳群の間を埋める貴重な資料になると考えられる。
- (4) 出土遺物の時期は土器棺墓は弥生時代中期の白岩式土器と考えられる。その他、丘陵上からは菊川式土器も出土している。4基の古墳の埋葬主体部から時期の確定できる土器は出土していないが1号墳の南周溝の坏身は6世紀前半、4号墳の瓦泉と壺は6世紀前半と考えられる。なお2号墳は土師器小破片のみの出土であるが6世紀初頭であろう。

なお、本書の写真図版16～23に参考資料として、周辺遺跡の資料から筆者の手元にある地蔵ヶ谷横穴群出土の須恵器・土師器の遺物写真の一部と付載した表1・2で紹介した。これは、昭和56年に機会があって西井幸雄氏（当時：坂尻遺跡調査員、現在：(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団）の協力を得て永井が撮影したものである。今回の井守塚古墳の報告をするにあたり、特に関連の深い地蔵ヶ谷横穴群の資料を公開するには絶好の機会と考え、ここに写真のみではあるが紹介することにした。古墳時代の袋井市を考える上でたいへん重要な資料である。最後になりましたが、民生部生活環境課の渡辺幸義さん、兼岡正利さんには平成6年度の発掘調査という特殊な事業遂行のため特にご苦労をかけました。また、平成7年度の出土品整理作業については永井宏昭さんの手を煩わせました。皆様のご協力を得て無事、事業が完了し発掘

調査報告書が刊行されたことを感謝いたします。

(参考文献)

- 足立鍬太郎 1930 『静岡県史』(旧県史)
- 日本国有鉄道 1965 『東海道幹線増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 川井正一 1972 『袋井雲座古墳D単位群発掘調査概報』 袋井市教育委員会
- 静岡県教育委員会 1983 『遠江の横穴群』(静岡県内横穴分布調査報告書Ⅰ)
- 狐塚古墳発掘調査委員会 1976 『狐塚(内部資料)』
- 静岡県教育委員会 1974 『掛川市宇洞ヶ谷横穴墳発掘調査報告書』
- 川井正一 1976 「袋井市地藏ヶ谷横穴群の問題点」『森町考古10』 森町考古学研究会
- 袋井市教育委員会 1987 『愛野向山A-2・3・4号墳』
- 袋井市役所 1983 『袋井市史 通史編』
- 松井一明他 1987 「25. 静岡県愛野向山遺跡」『日本考古学年報38』 日本考古学協会
- 松井一明 1988 「愛野向山遺跡」『静岡県の原像をさぐる』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 袋井市教育委員会 1988 『愛野向山A-8号墳 愛野向山墳墓群 愛野向山Ⅳ遺跡』
- 静岡県 1990 『静岡県史 資料編1 考古一』
- 静岡県 1990 『静岡県史 資料編2 考古二』
- 静岡県 1992 『静岡県史 資料編3 考古三』
- 静岡県 1994 『静岡県史 通支編1 原始・古代』

(参考写真) 周辺遺跡出土の土器 I

番号	遺 跡 名	備 考	番号	遺 跡 名	備 考
1	地藏ヶ谷古墳群	G 1 玄空No. 8	34	地藏ヶ谷古墳群	
2	〃	G 1 前庭No. 2	35	〃	G 5 187
3	〃	G 6 No. 1	36	〃	G 5 188
4	〃	G 6 前庭No. 9	37	〃	G 7 No. 7
5	〃	G 6 No.12	38	〃	G 10 No. 6
6	〃	G 6 No. 1	39	〃	地 2 No. 4
7	〃	地 8 前庭No. 3	40	〃	G 4 No. 6
8	〃	地 7 前庭No. 4	41	〃	G 4 No.19
9	〃	G 6 前庭No. 2	42	〃	G 5 前庭No.24,27,34
10	〃	G 6 No. 5	43	〃	G 7 No.11
11	〃		44	〃	地 8 No. 1
12	〃	G 16 No.25	45	〃	G 14 No. 9
13	〃	G 2 No. 2	46	〃	G 16 No.26
14	〃	地 2 No. 3	47	〃	G 4 前庭No. 2
15	〃	G 3 No. 4	48	〃	G 4 No. 1
16	〃	G 4 No. 2	49	〃	地 2 No. 3
17	〃	G 5 前庭No.32	50	〃	G 4 前庭No. 5
18	〃	G 6 前庭No. 1	51	〃	G 4 前庭No. 6
19	〃	G 6 No. 4	52	〃	G 4 No.10
20	〃	G 6 No.11	53	〃	G 4 No.13
21	〃	G 6 No.13	54	〃	G 4 No.15
22	〃	地 7 No. 8	55	〃	G 5 前庭No. 6
23	〃	G 7 No.21	56	〃	G 5 前庭No.15
24	〃	G 7 No.26	57	〃	G 5 前庭No.19
25	〃	G 8 No. 2	58	〃	G 5 前庭No.25
26	〃	G 8 No. 3	59	〃	G 5 前庭No.29
27	〃	G 15 No. 1	60	〃	G 6 前庭No.11
28	〃	G 16 No.28	61	〃	地 7 No. 3
29	〃	G - E 前庭No. 2	62	〃	地 7 No.16
30	〃	G - d 玄室No. 7	63	〃	地 7 No.18
31	〃	G 4 No. 5	64	〃	地14 No. 1
32	〃	地 4 No. 7	65	〃	地14 No. 2
33	〃	地 4 No.12	66	〃	G 14 No. 3

(参考写真) 周辺遺跡出土の土器Ⅱ

番号	遺 跡 名	備 考	番号	遺 跡 名	備 考
67	地藏ヶ谷古墳群	地14 No. 4	100	地藏ヶ谷古墳群	地 7 No.17
68	〃	地16 No.27	101	〃	地 7 No.27
69	〃	地 e No. 2	102	〃	地 e No. 1
70	〃	地 e No.28	103	〃	地 e No. 9
71	〃	地 e No.27	104	〃	地 e No.30
72	〃	地 e No.34	105	〃	地 e No.22
73	〃	地 e No.36	106	〃	地 e No.24
74	〃	地 e No.23	107	〃	地 e No.25
75	〃	地 e No.35	108	〃	地 e No.26
76	〃	地 e No.31	109	〃	地 e No.32
77	〃	地 e No. 3	110	〃	地 e No.39
78	〃	G旧D群 No. 1	111	〃	地 e 前庭No. 3
79	〃	G－d No. 3	112	〃	G－d No. 4
80	〃	G E 前庭No. 3	113	〃	G－d No. 5
81	〃	G－f No. 3	114	〃	G－d No. 6
82	〃	G－f No. 7	115	〃	G－e No.13
83	〃	G－f No.11	116	〃	G－f No. 1
84	〃	G－f No.16	117	〃	G－f No. 2
85	〃		118	〃	G－f No. 8
86	〃	G 4 No. 2	119	〃	G－f No. 9
87	〃	G 4 No. 3	120	〃	G－f No.10
88	〃	G 4 No.13	121	〃	G旧D群 No. 2
89	〃	G 4 No.14	122	〃	
90	〃	G 4 No.17	123	〃	G 4 No. 4
91	〃	G 4 前庭No. 1	124	〃	G 4 0101
92	〃	G 4 前庭No. 3	125	〃	G 4 0103
93	〃	地 4 前庭No. 4			
94	〃	G 5 前庭No. 3, 7			
95	〃	G 5 前庭No.15			
96	〃	G 5 前庭No.26			
97	〃	G 5 前庭No.29			
98	〃	G 5 前庭No.30			
99	〃	地 7 No.12			

挿

図

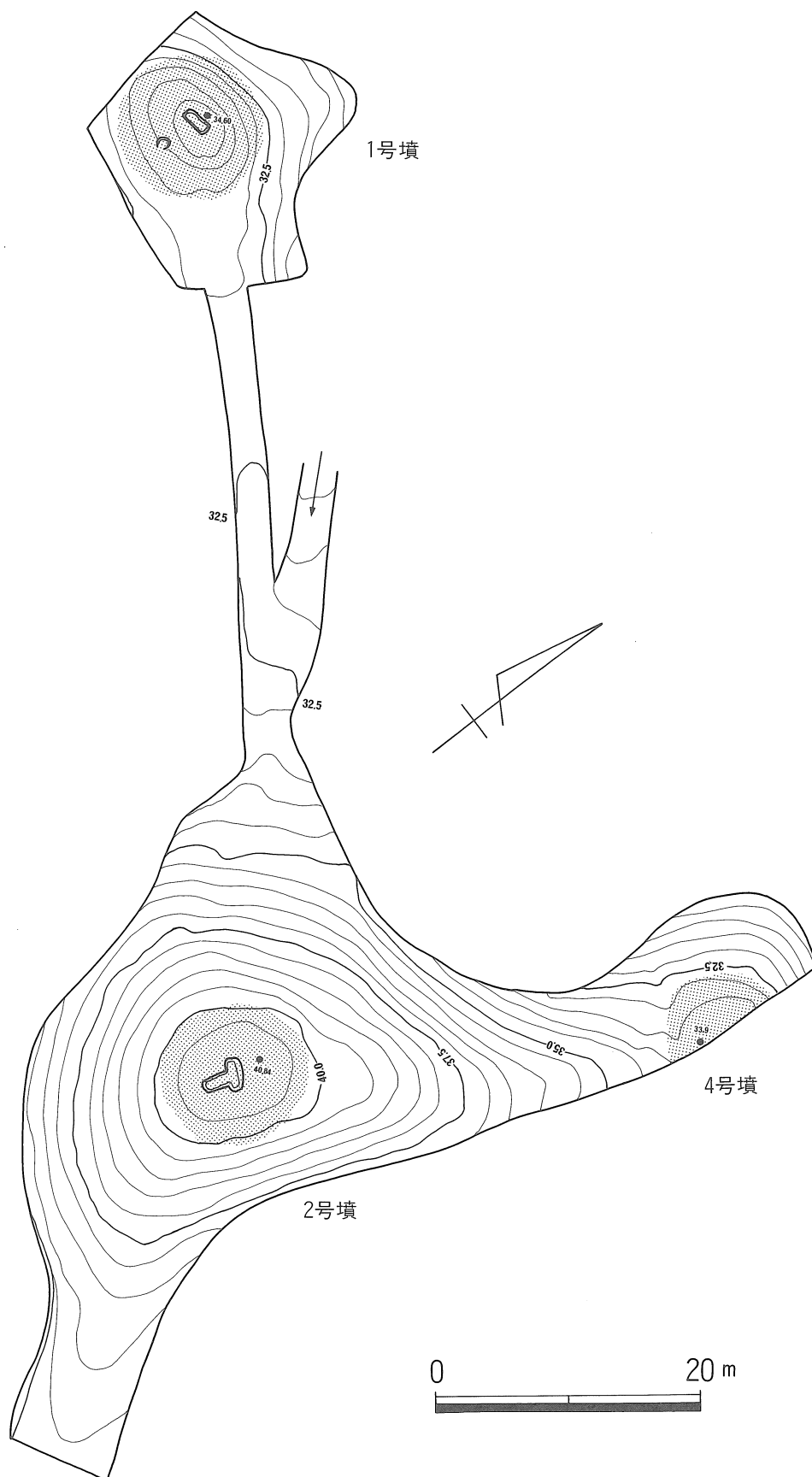


第1図 井守塚古墳群の位置 (1/25,000)

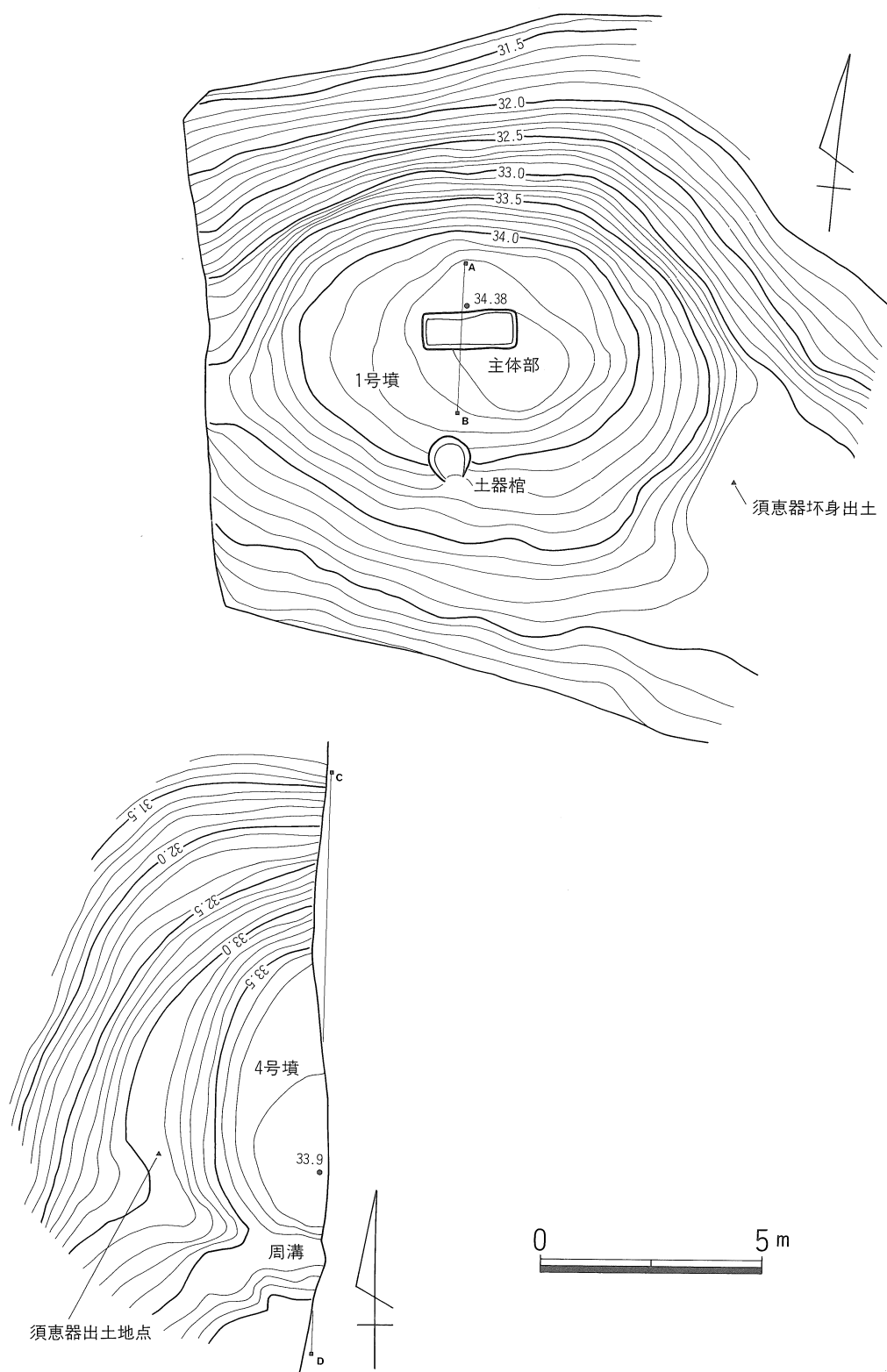
- | | | | | |
|-------------|-----------|----------|----------|-------------|
| 1 御所森古墳 | 2 狐塚古墳 | 3 大門大塚古墳 | 4 井守塚古墳群 | 5 愛野向山古墳群 |
| 6 団子塚古墳群 | 7 高尾向山古墳群 | 8 雲座古墳群 | 9 長者平古墳群 | 10 五ヶ山B 1号墳 |
| 11 五ヶ山B 2号墳 | 13 古新田遺跡 | 14 大門遺跡 | | |



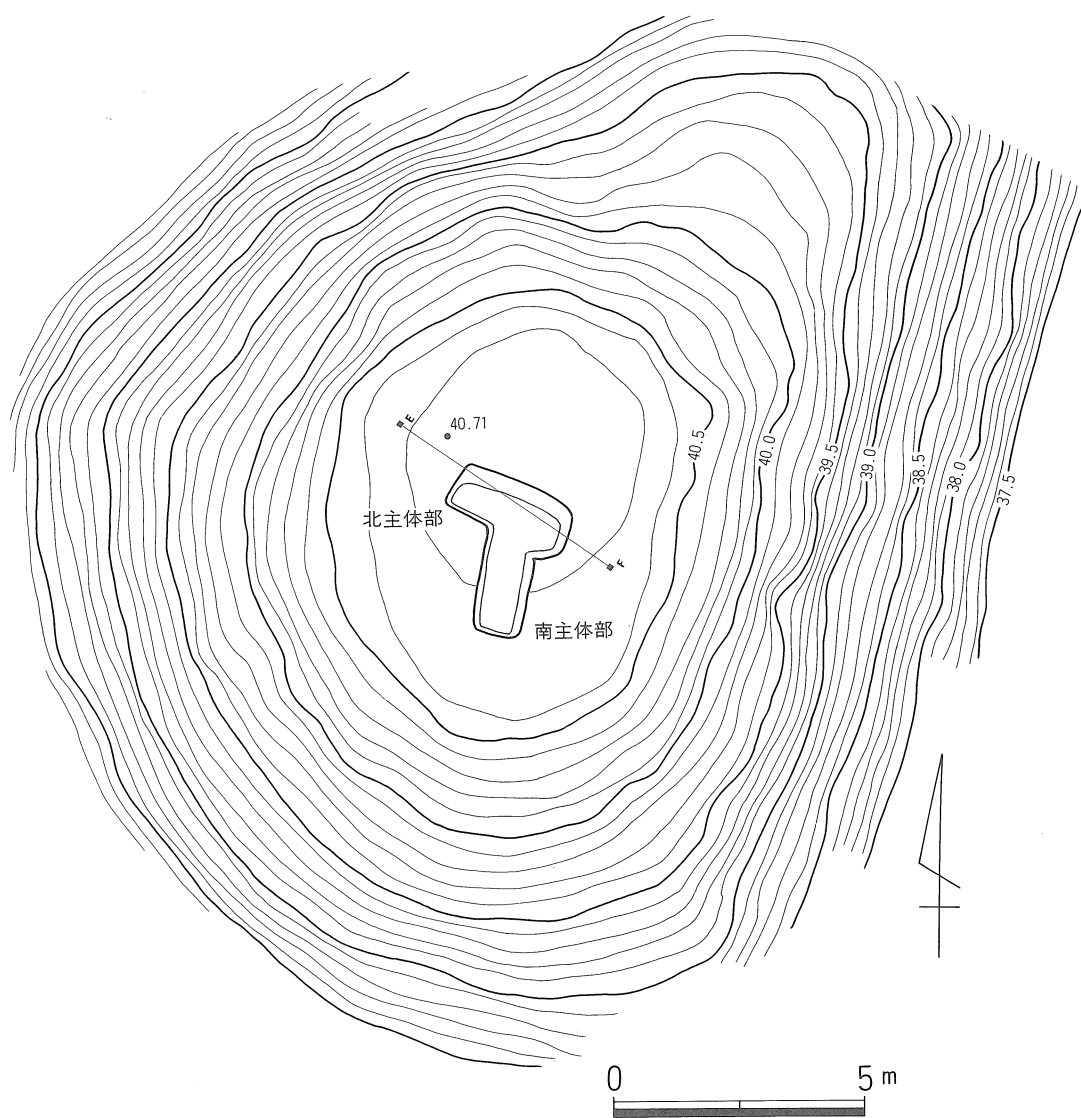
第2図 井守塚古墳群の周辺 (1/2,500)



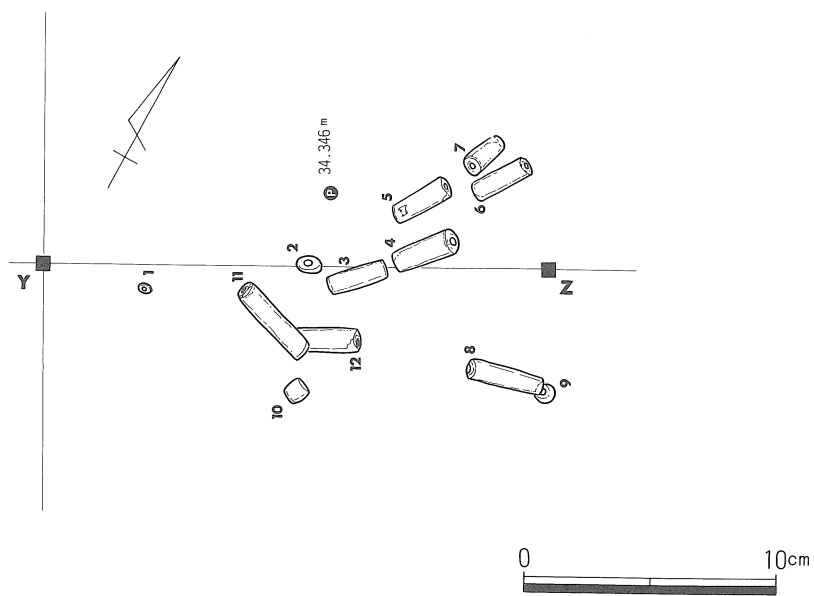
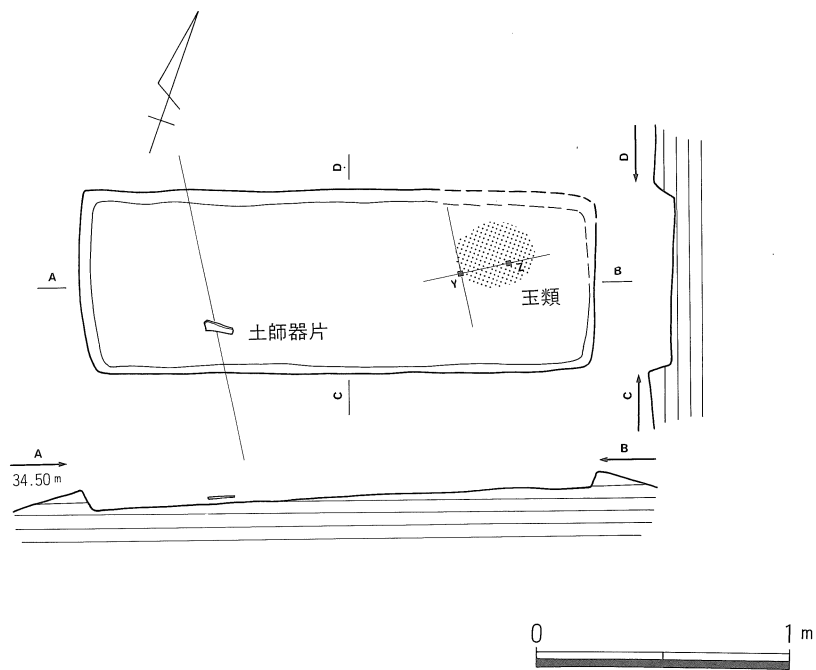
第3図 井守塚古墳群全体図



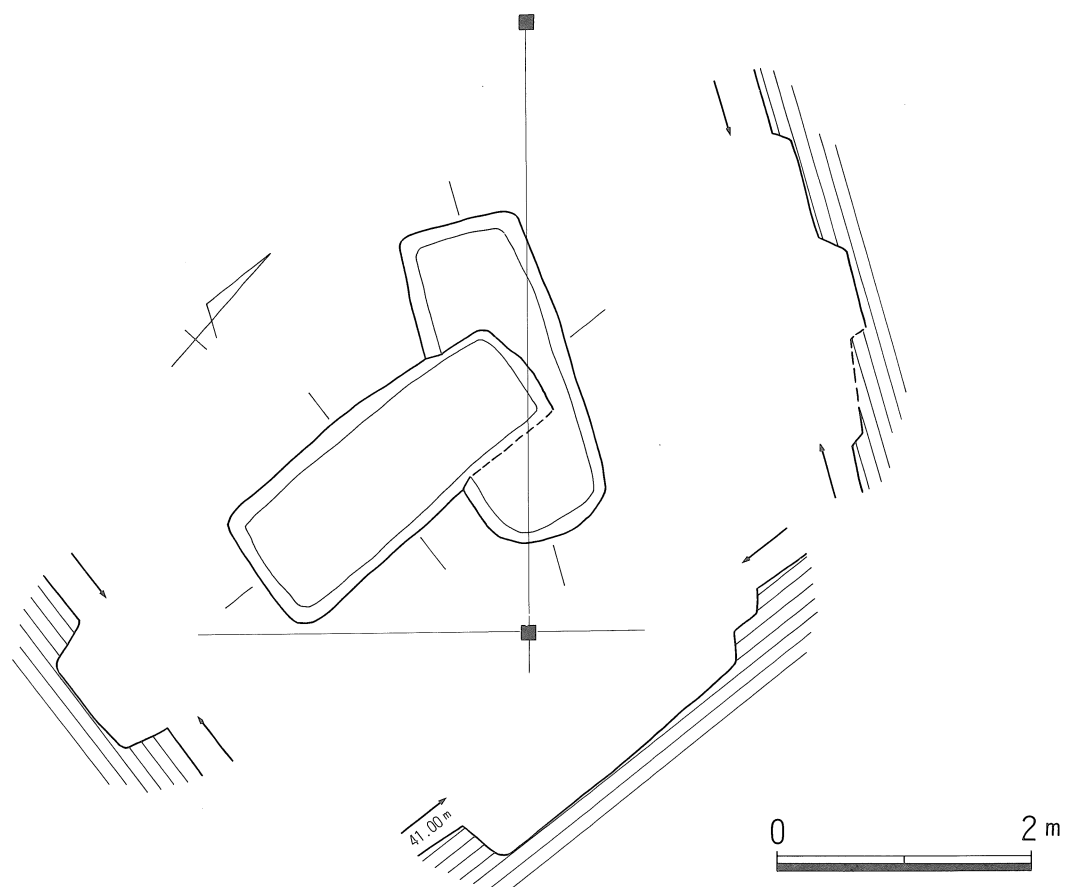
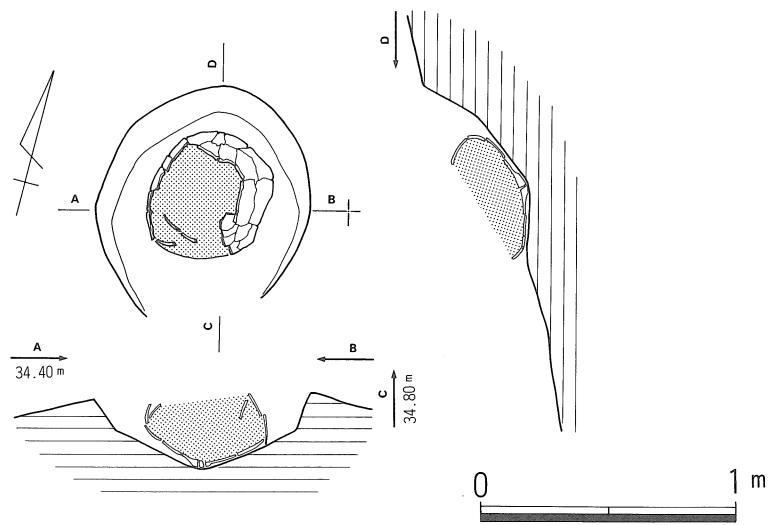
第4図 1号墳・4号墳地形測量図



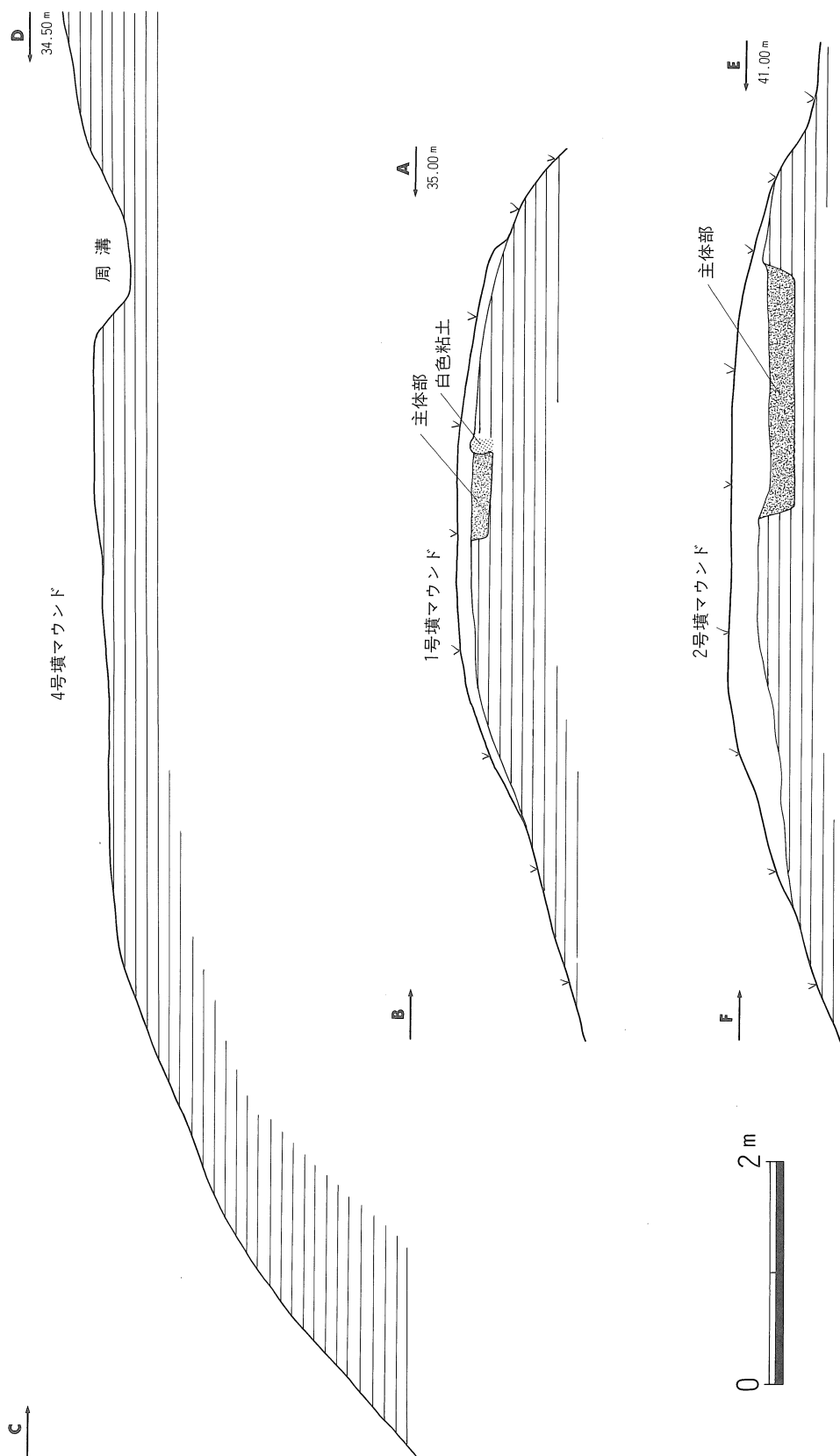
第5図 2号墳地形測量図



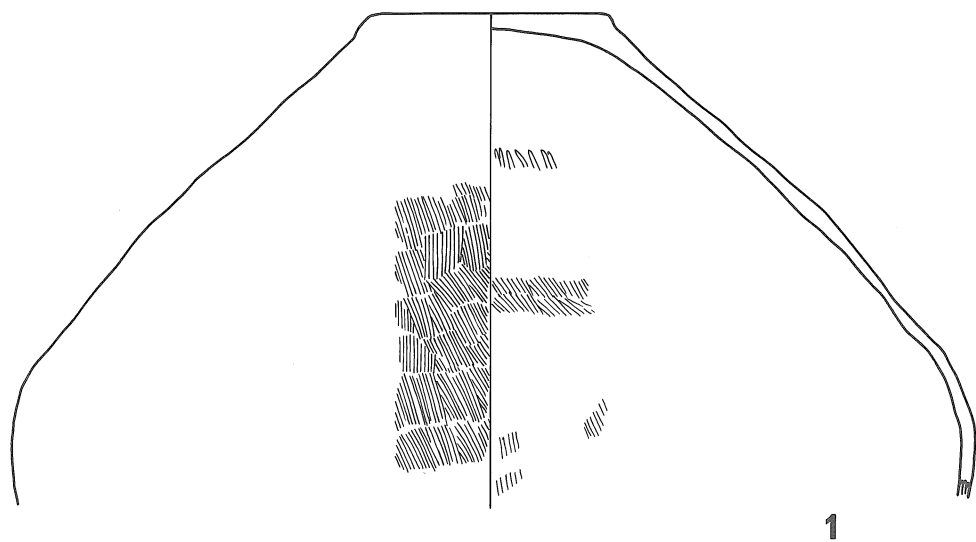
第6図 1号墳主体部・玉類実測図



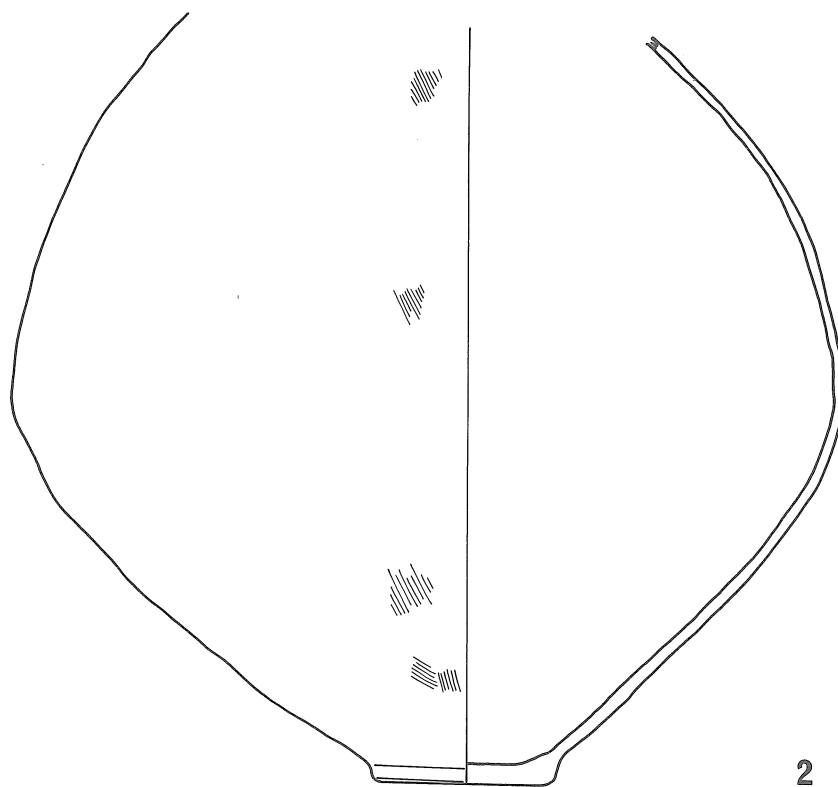
第7図 土器棺・2号墳主体部実測図



第8図 古墳断面図



1

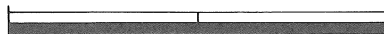


2

木葉跡あり

0

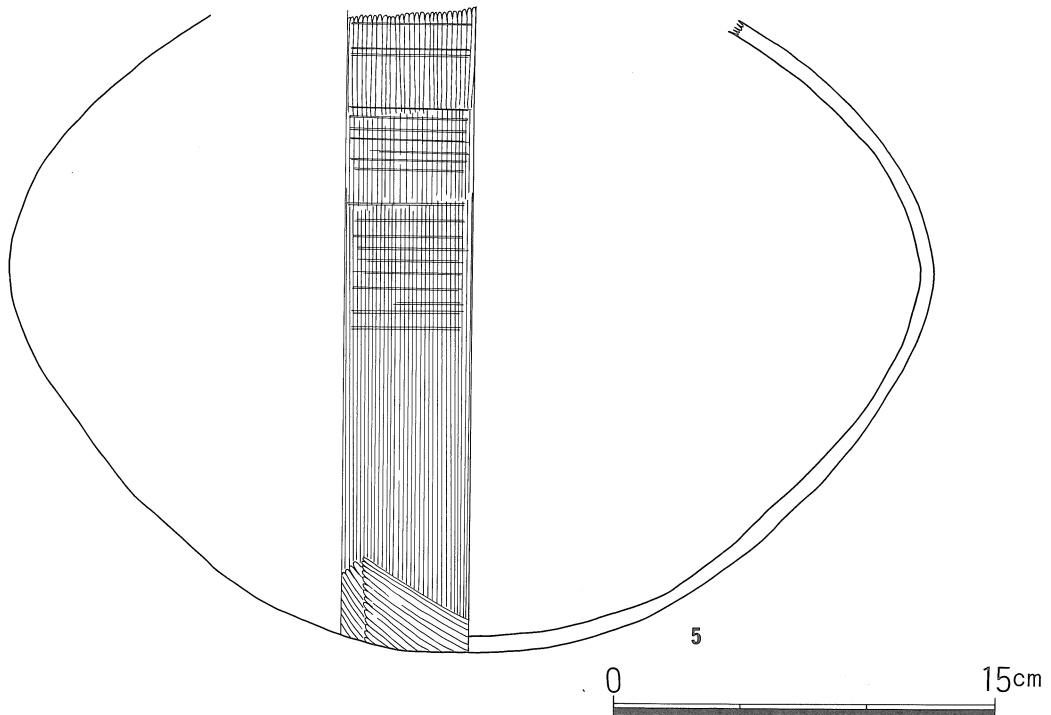
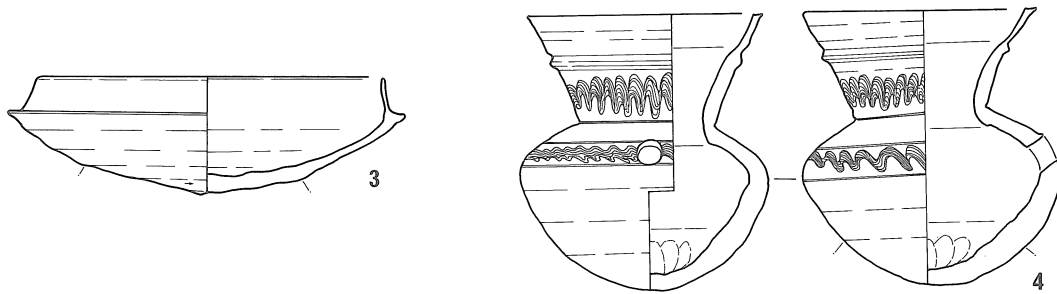
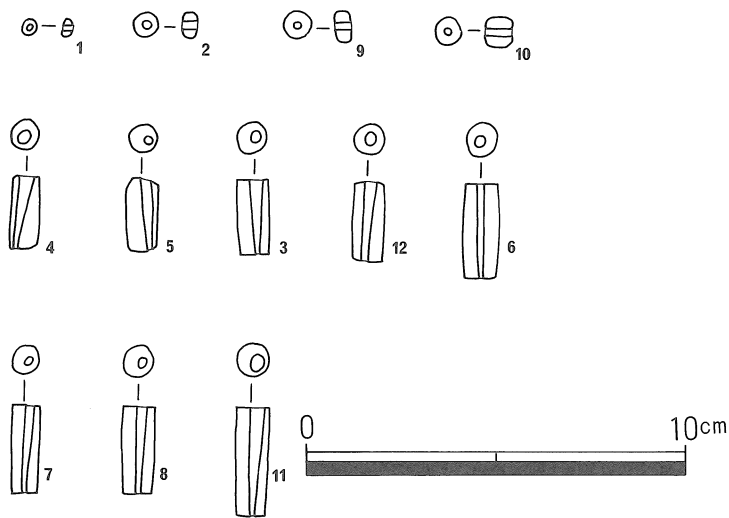
20cm



第9図 出土土器実測図

1号墳出土玉類一覧表（単位＝ミリ）

	直径	厚さ	穴径	遺物名
1	4	3	1	ガラス小玉
2	6.5	4	2	〃
9	7.8	4.5	1.5	〃
10	6	7	1.2	〃
4	8	19	3.5	管玉
5	8	19	2.5	〃
3	8	20	2.5	〃
12	8	21	3	〃
6	9	25	2	〃
7	8	24	2	〃
8	8	24	2	〃
11	8.5	29	3.8	〃



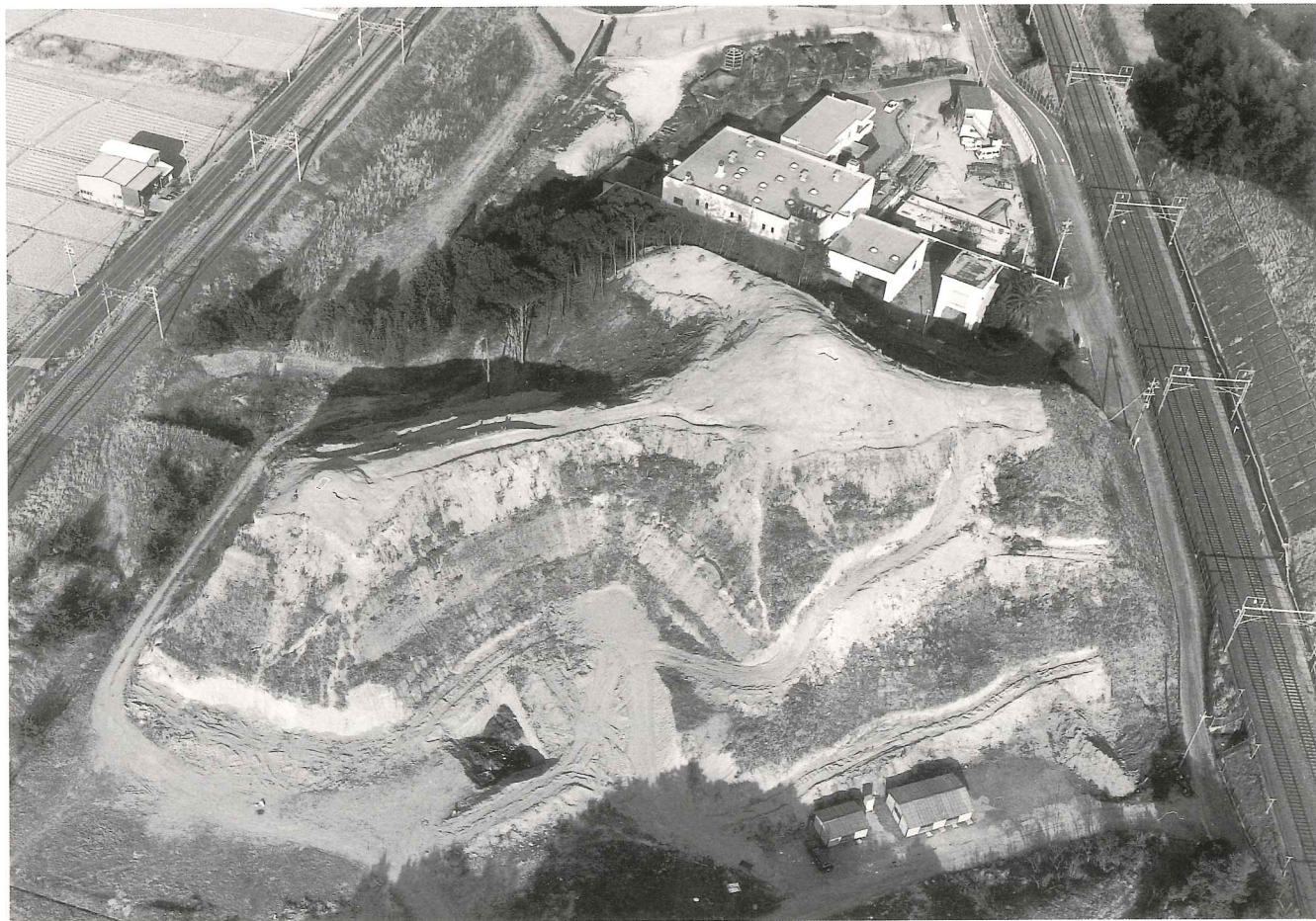
第10図 出土遺物実測図

写

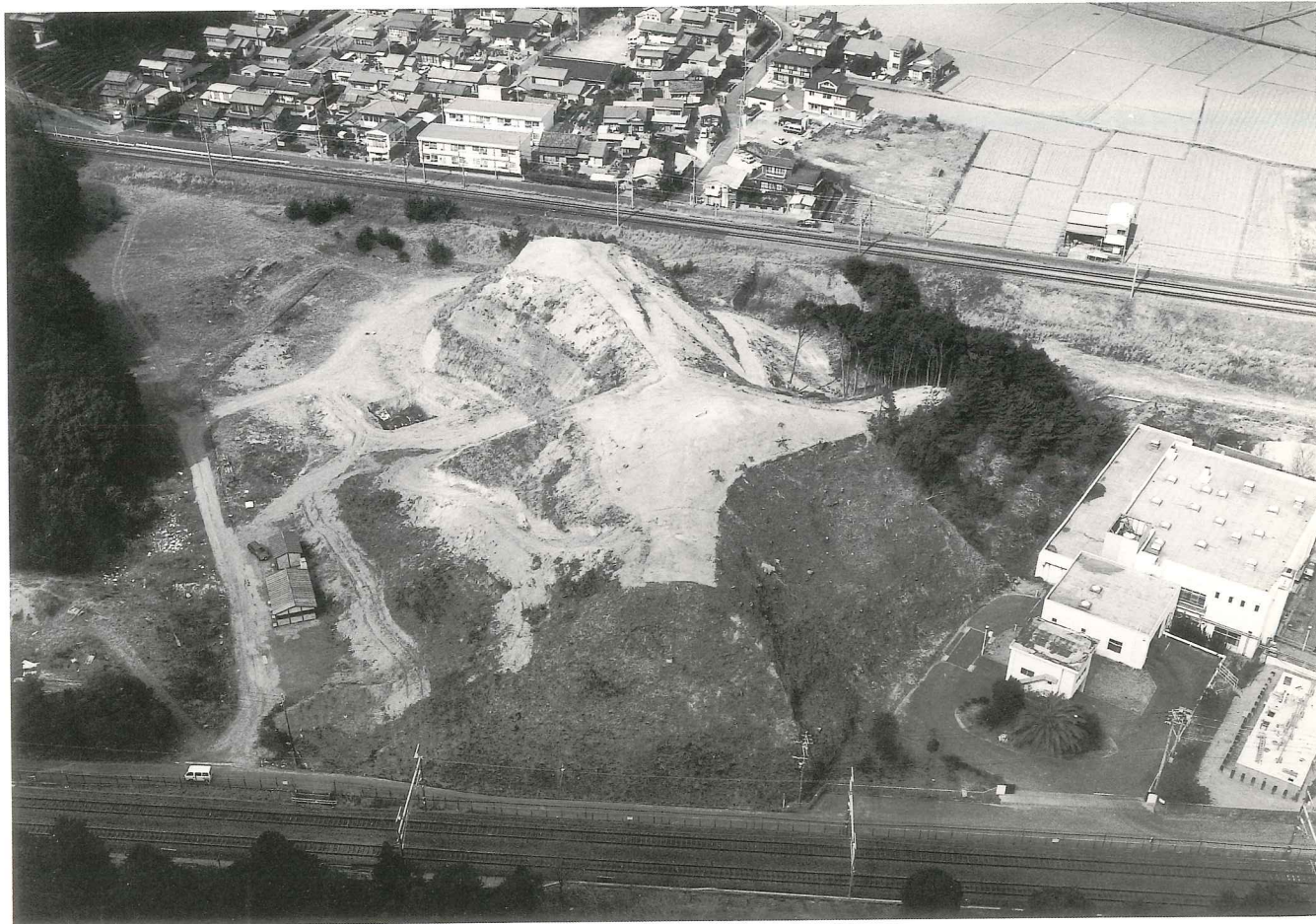
真



(1) 井守塚古墳群遠景（北より）



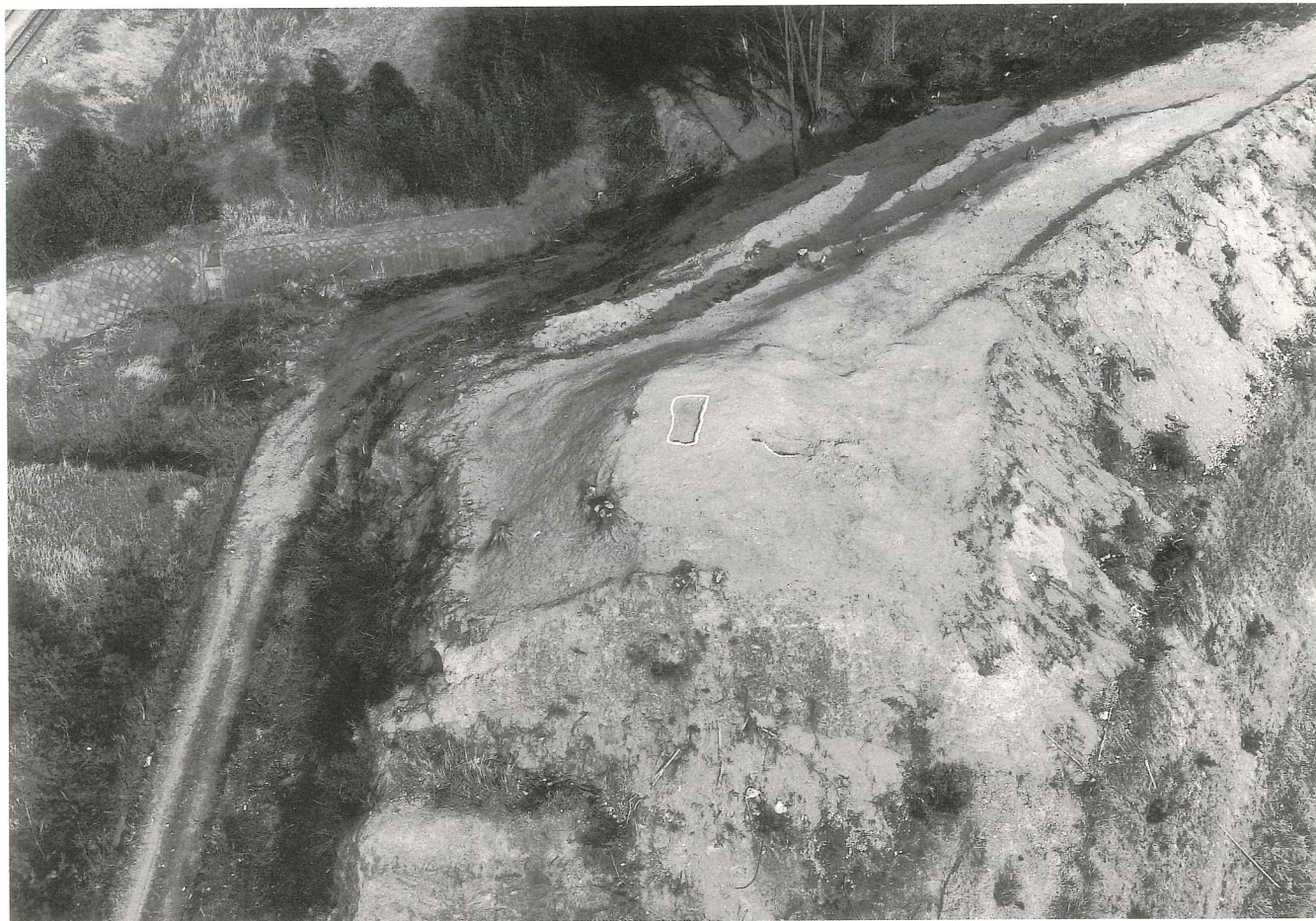
(2) 井守塚古墳群全景（西より）



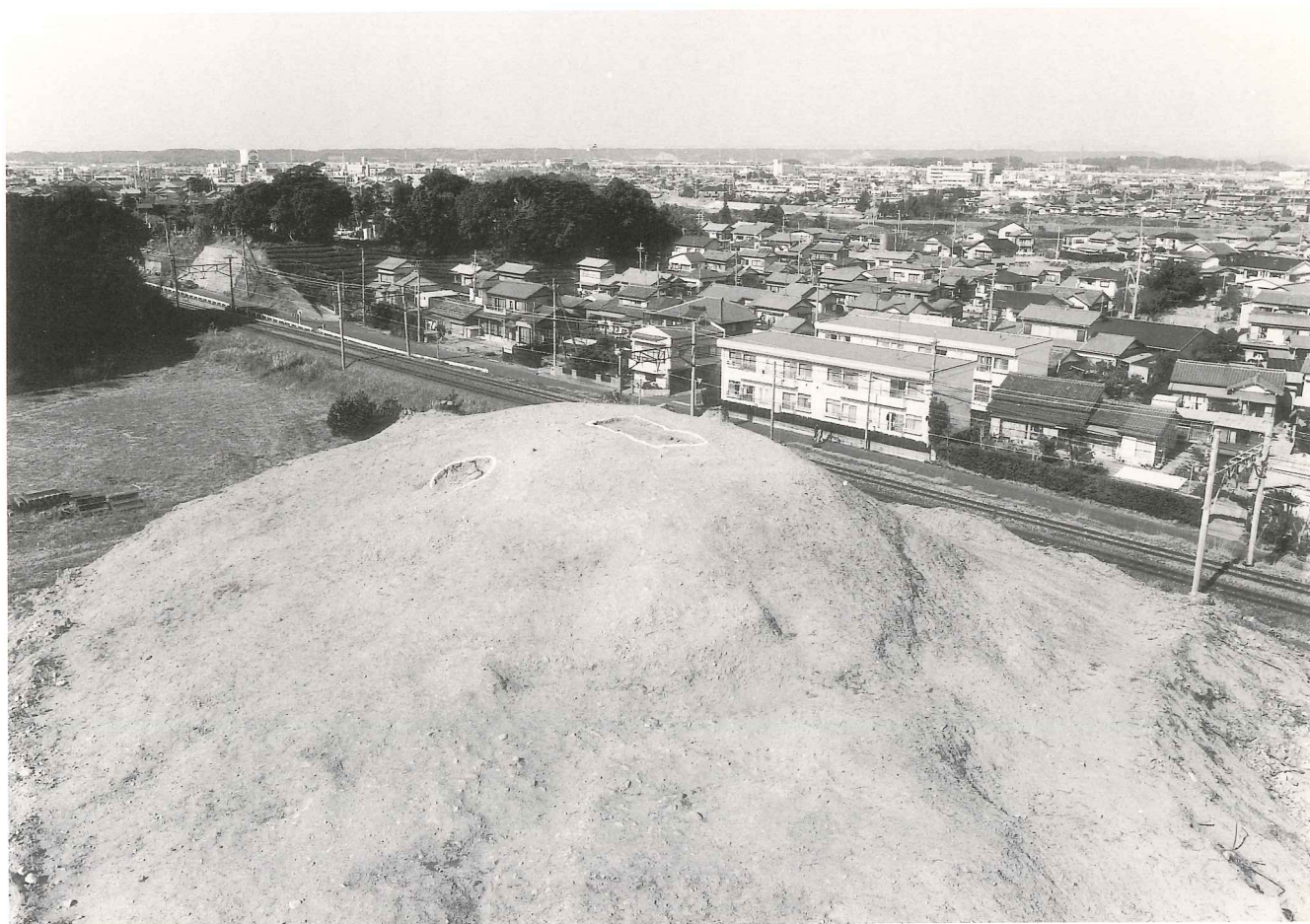
(1) 井守塚古墳群全景（南より）



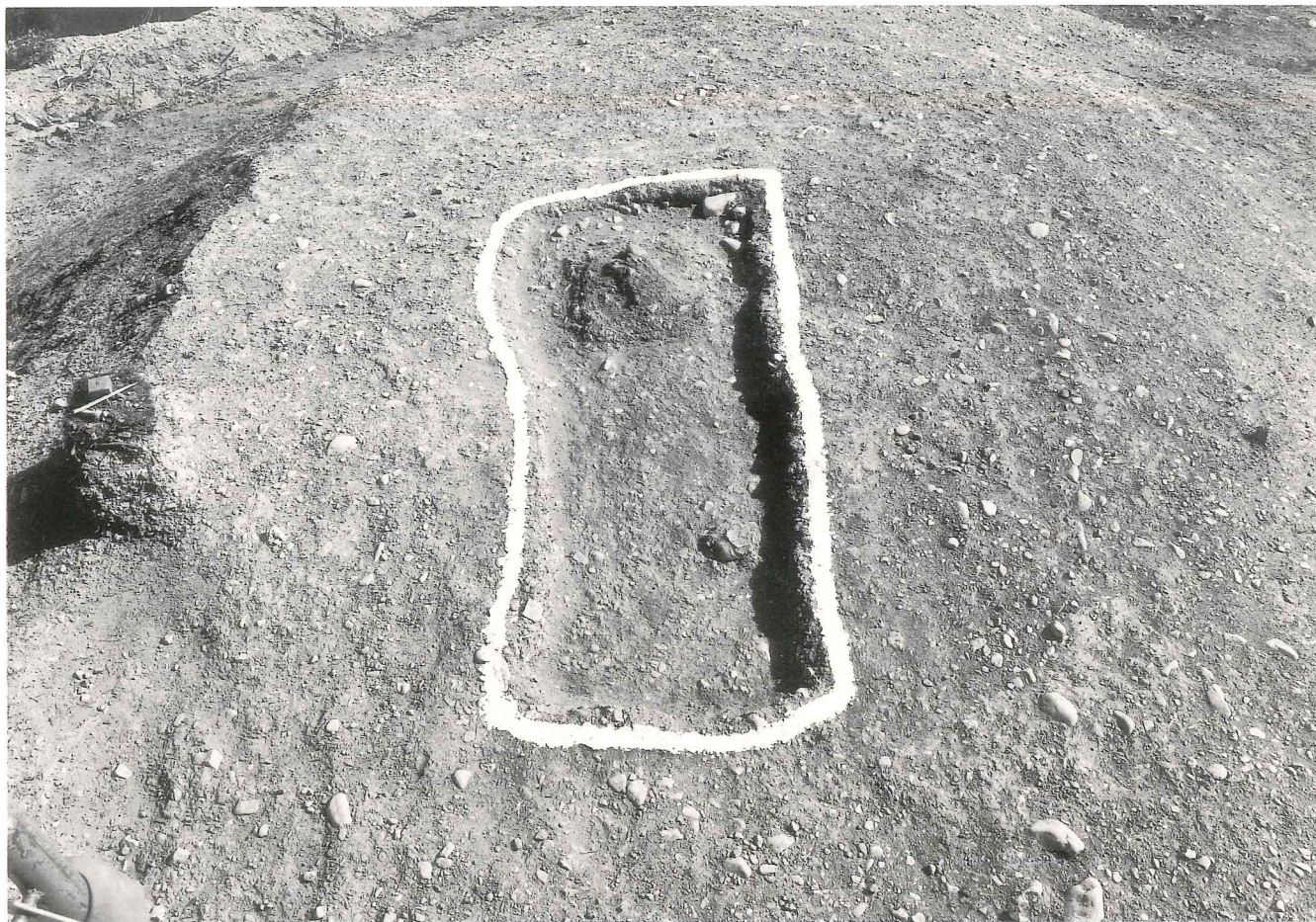
(2) ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影



(1) 井守塚1号墳全景（西より）



(2) 井守塚1号墳近景（東より）



(1) 井守塚1号墳主体部（西より）



(2) 1号墳主体部出土の玉類（東より）



(1) 調査を開始した1号墳



(2) 調査風景



(1) 1号墳頂部付近より出土した菊川式土器（高坏）



(2) 1号墳主体部 玉類の調査状況



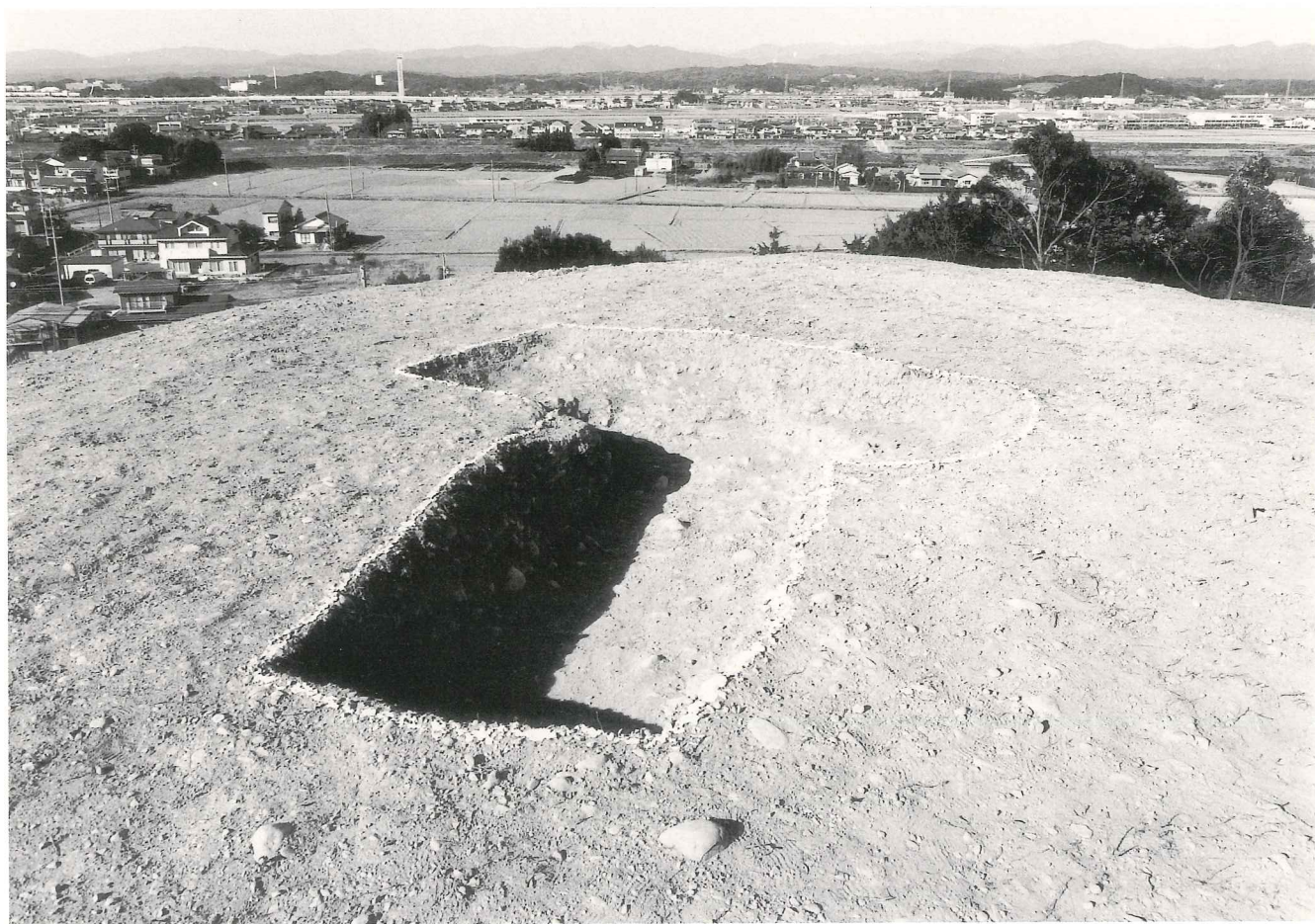
(1) 1号墳墳丘より出土した土器棺（弥生時代）



(2) 土器棺の完掘写真（北より）



(1) 井守塚 2 号墳全景（南西より）



(2) 2 号古墳主体部（南より）



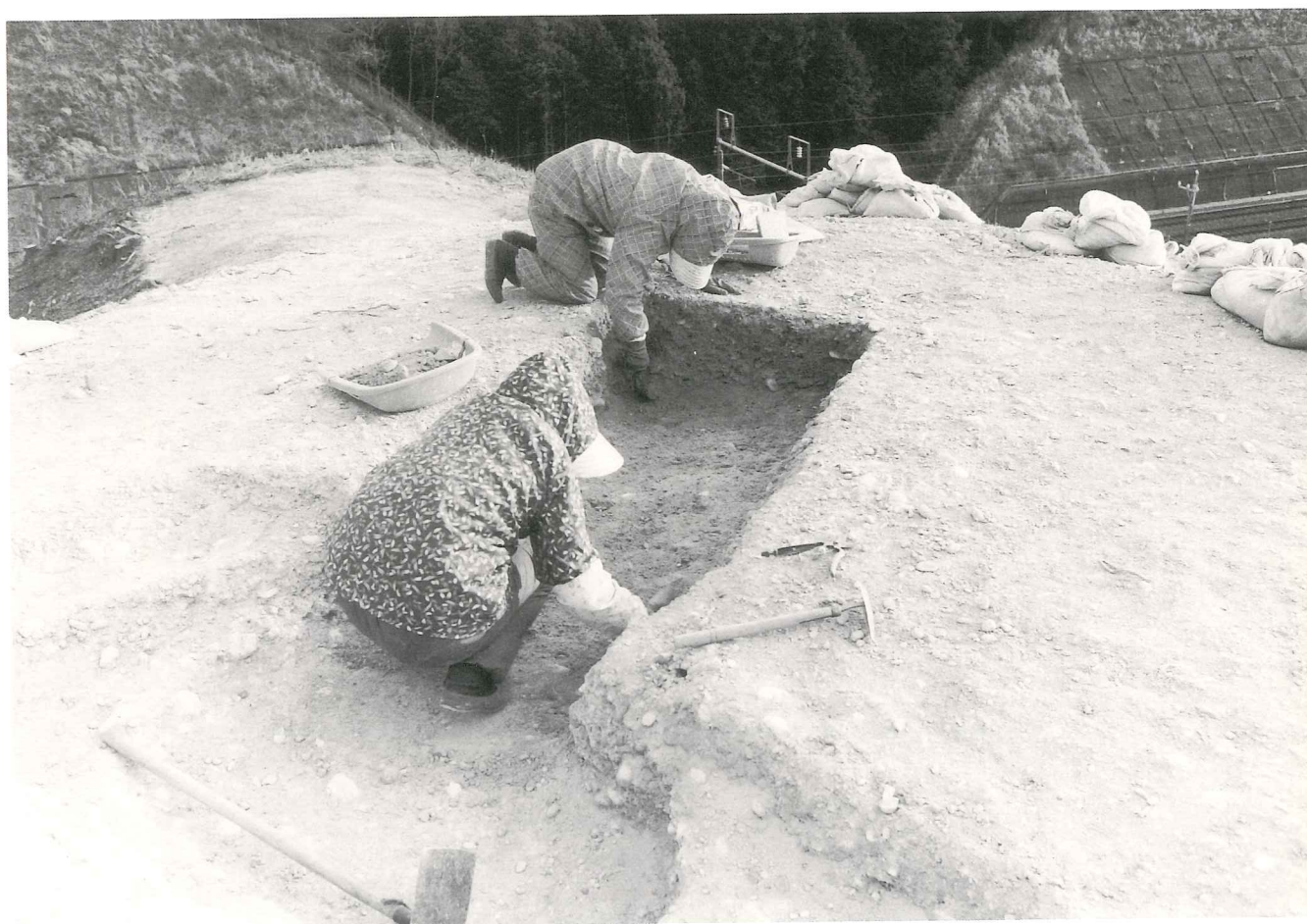
(1) 調査中の 2 号墳（北より）



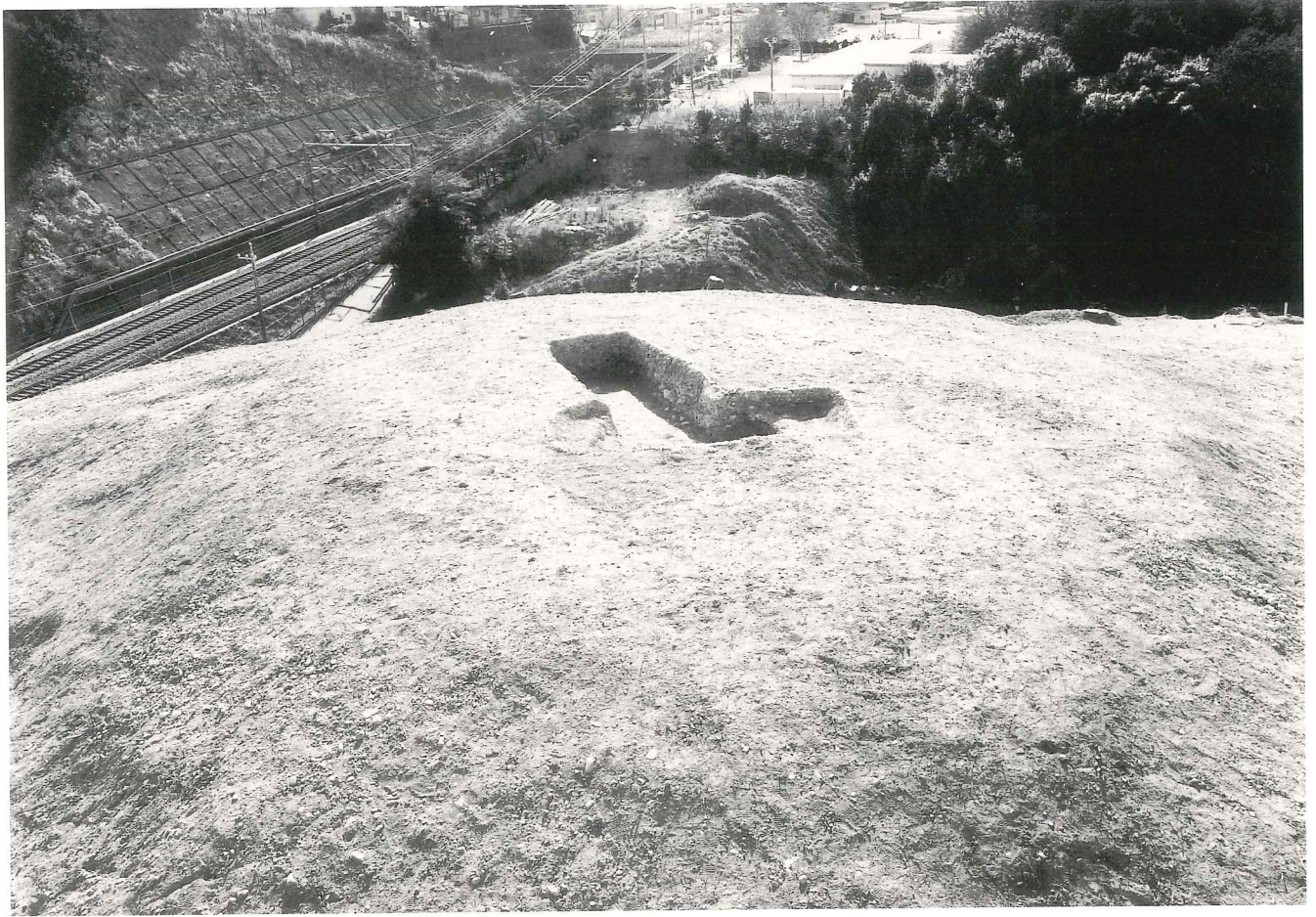
(2) 2 号墳完掘写真（北より）



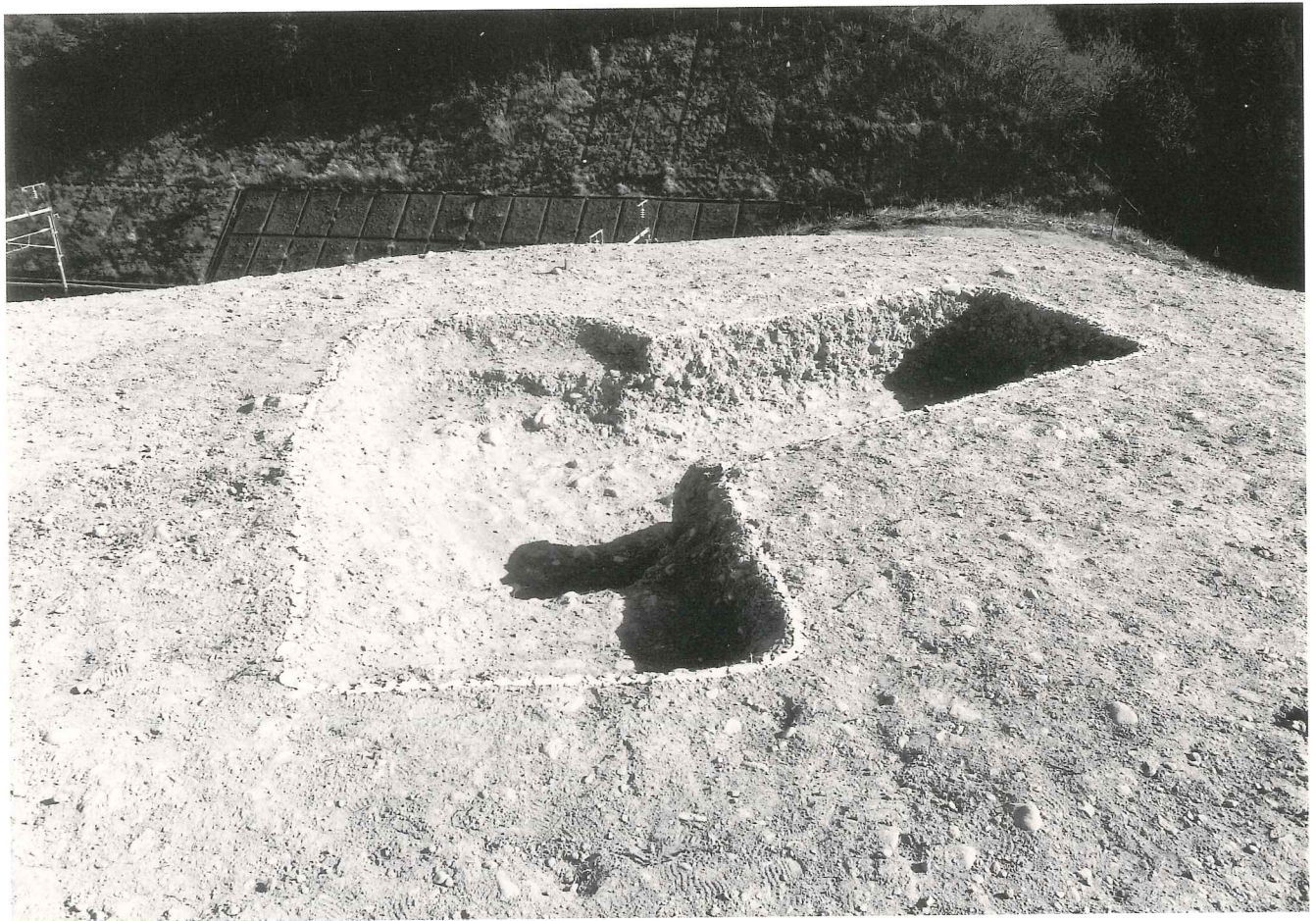
(1) 2号墳主体部調査状況（東より）



(2) 2号墳主体部調査状況（北より）



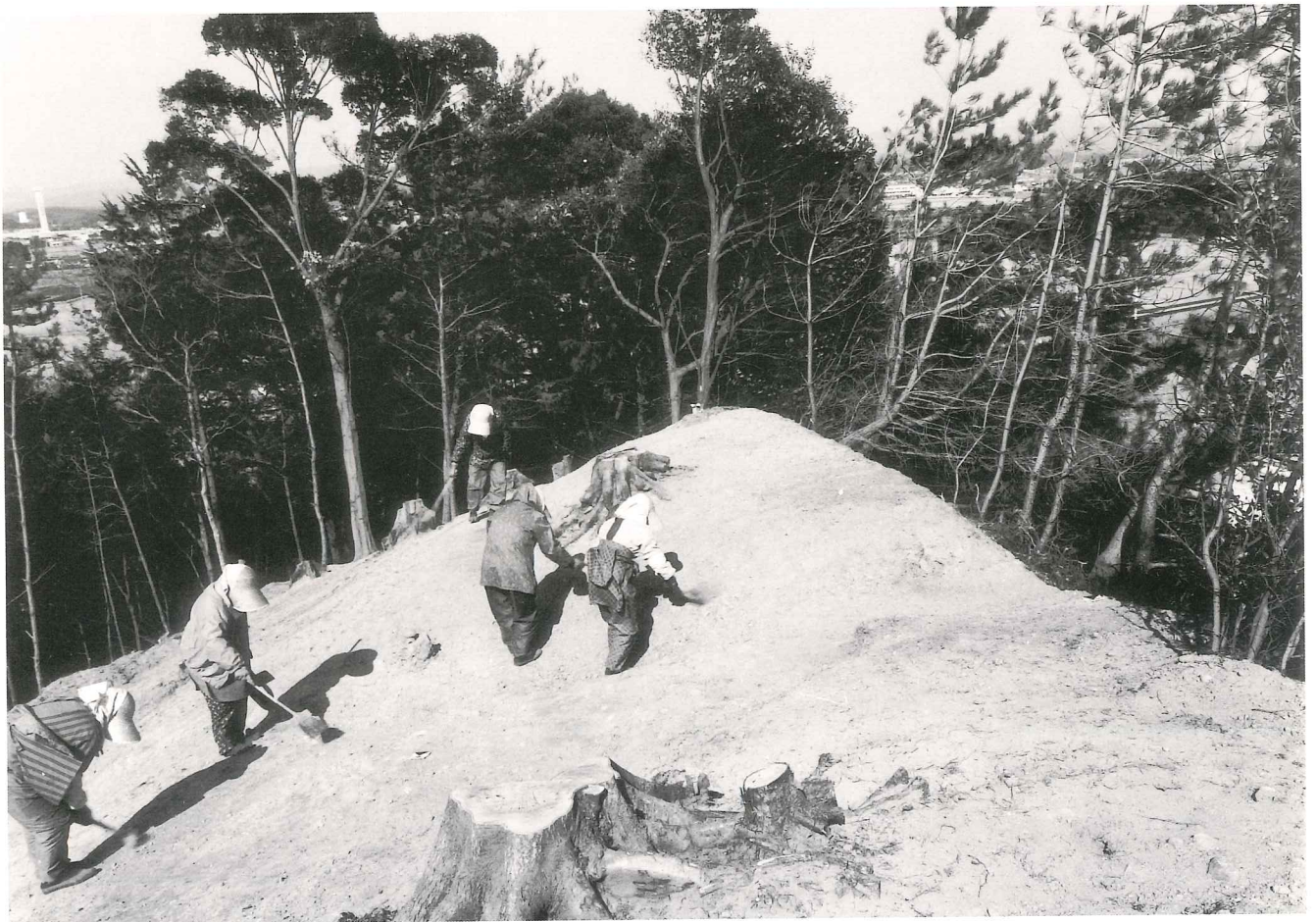
(1) 2号墳主体部完掘写真（東より）



(2) 2号墳主体部完掘写真（北より）



(1) 井守塚4号墳全景（西より）



(2) 調査中の4号墳（北より）



(1) 4号墳完掘写真（東より）



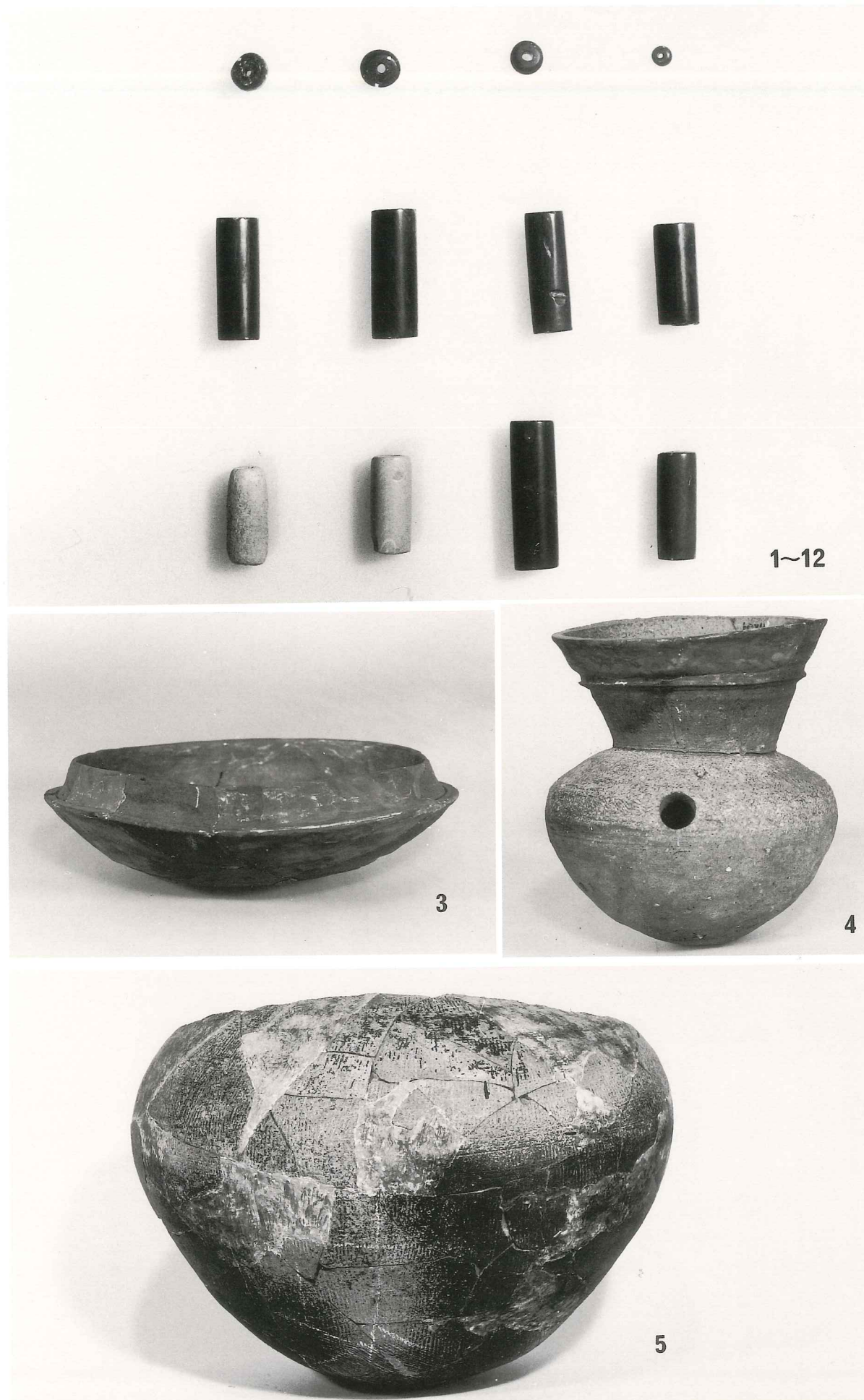
(2) 4号墳出土の須恵器（周溝より）



(1) 土器棺 (蓋)



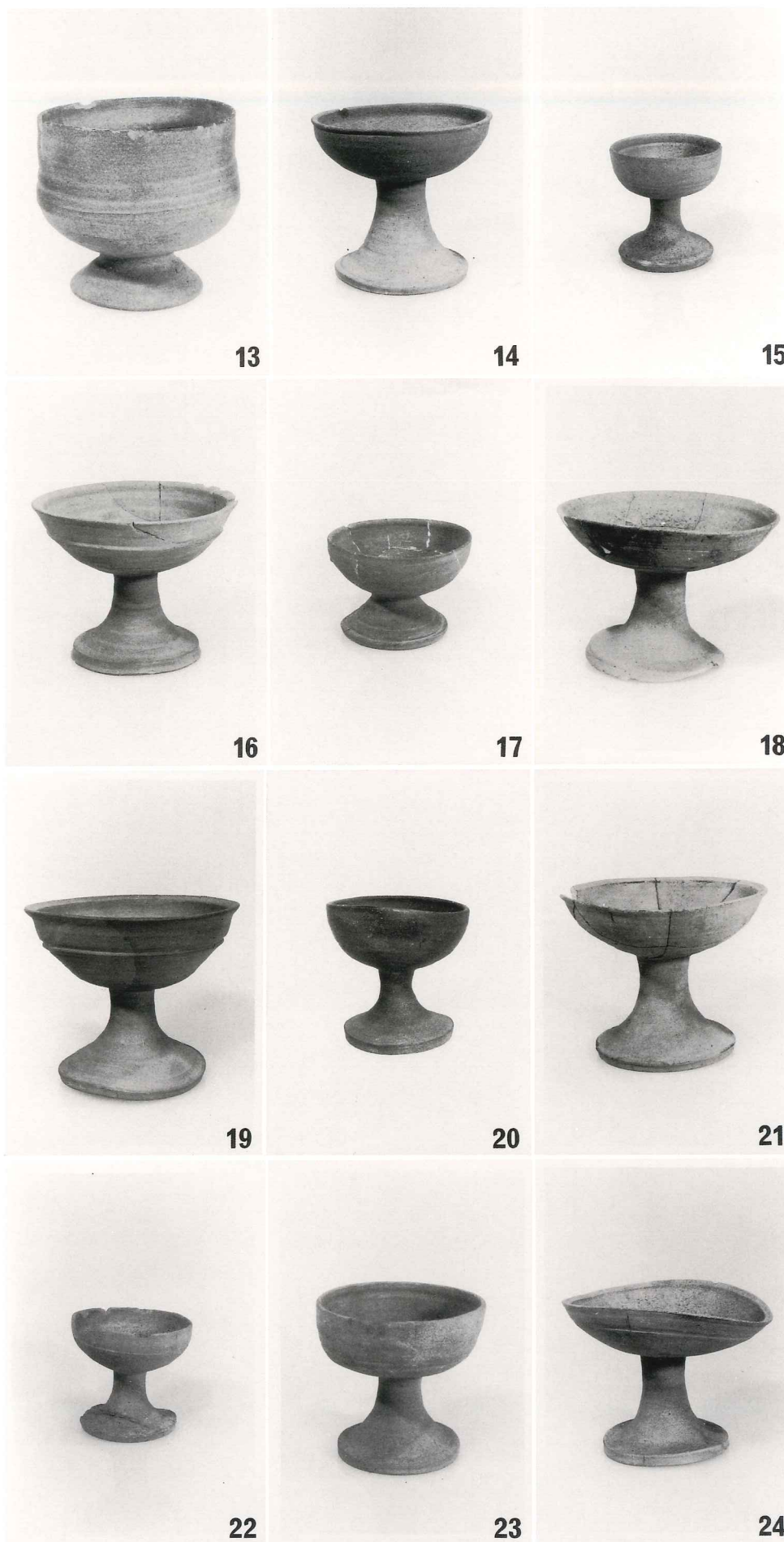
(2) 土器棺 (身)



井守塚古墳群出土遺物



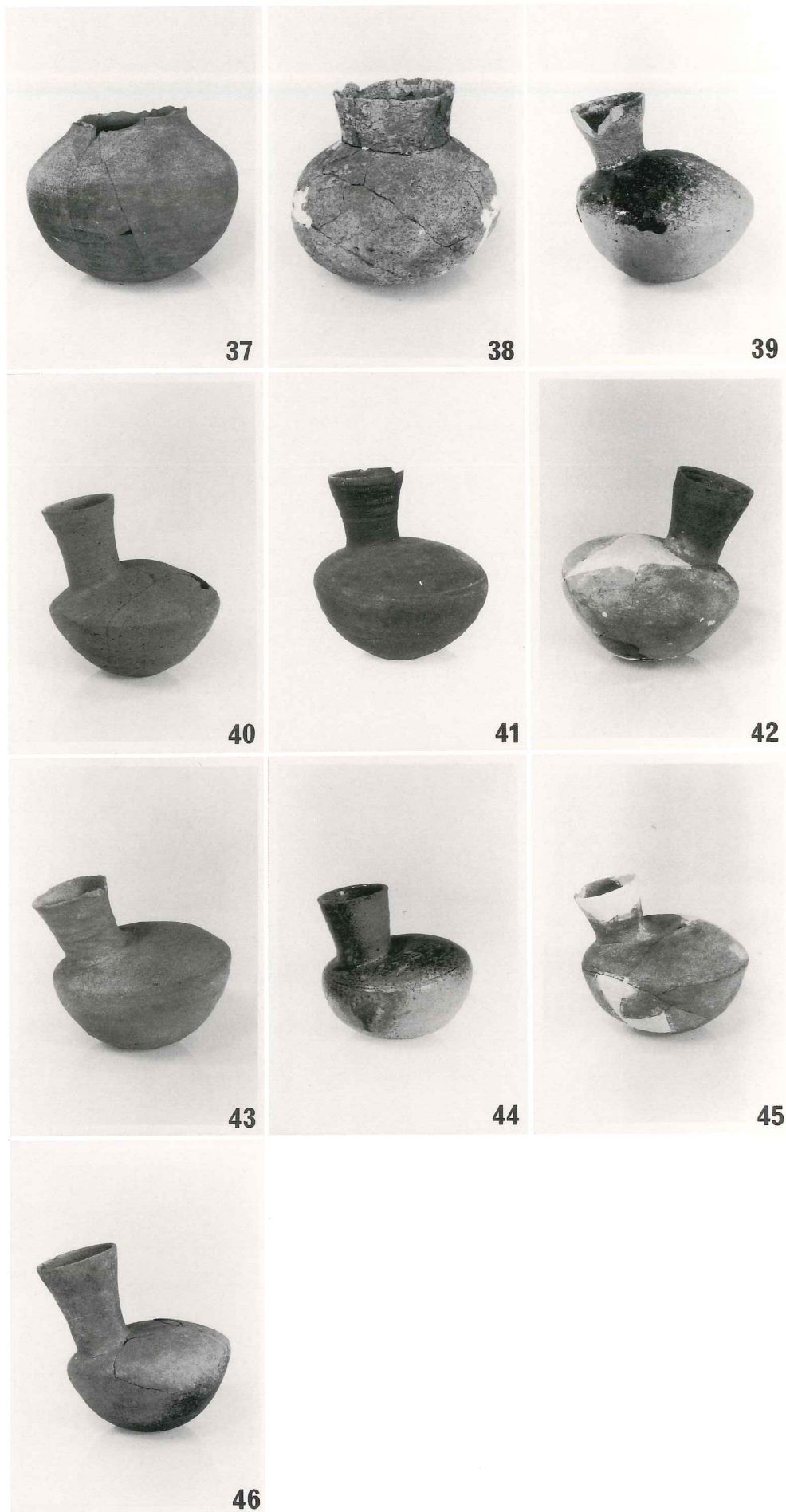
周辺遺跡出土の土器 (1)



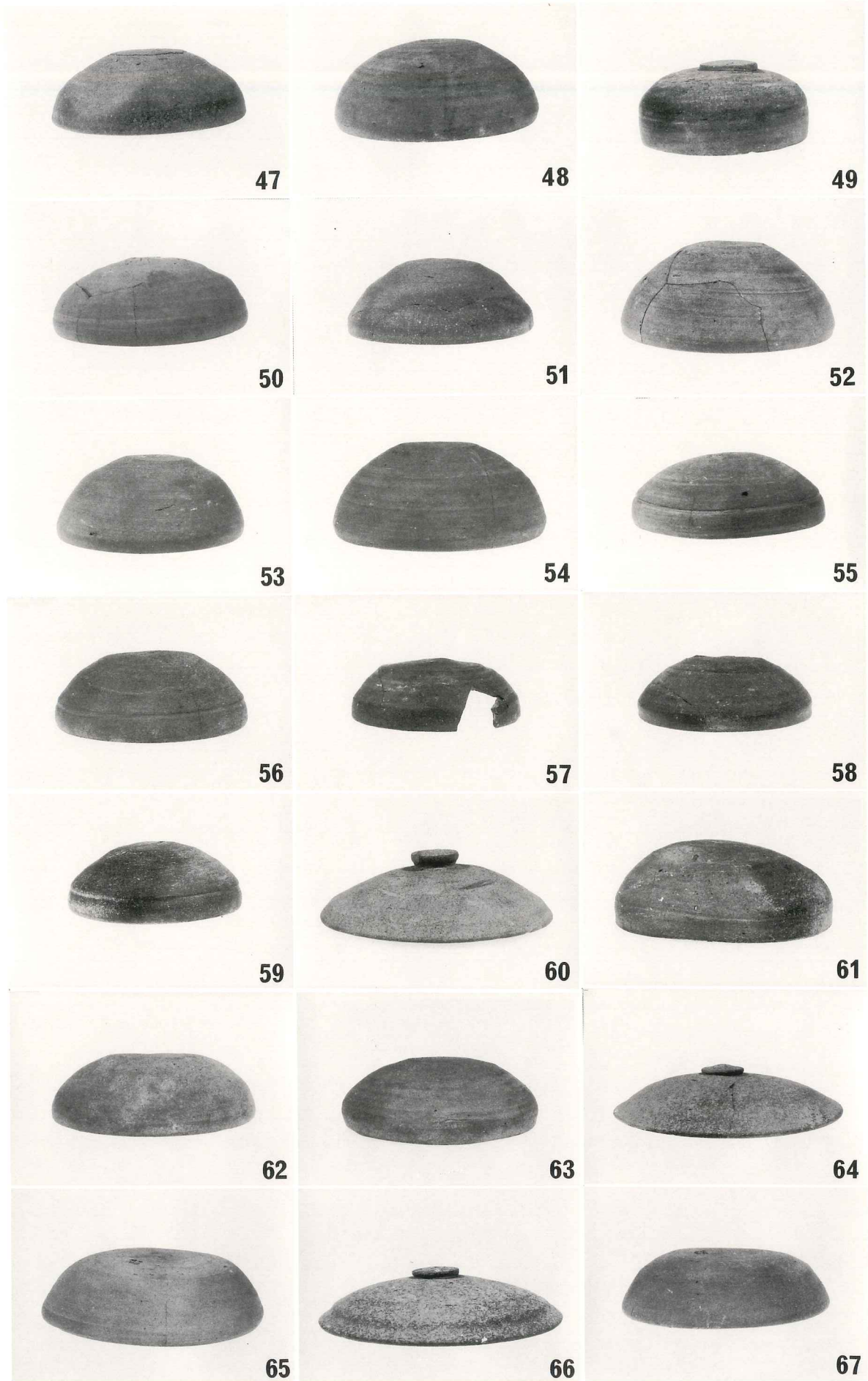
周辺遺跡出土の土器 (2)



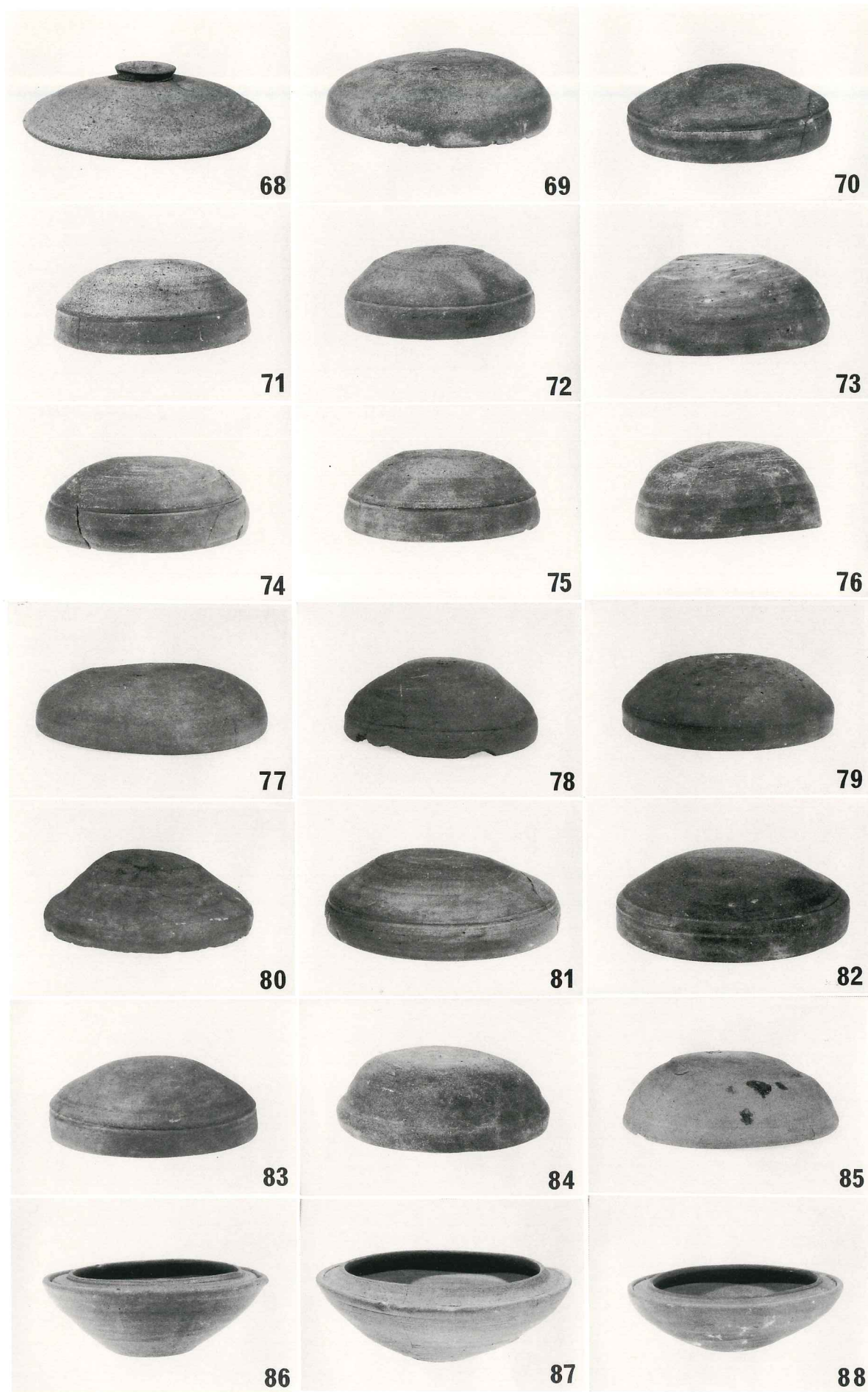
周辺遺跡出土の土器 (3)



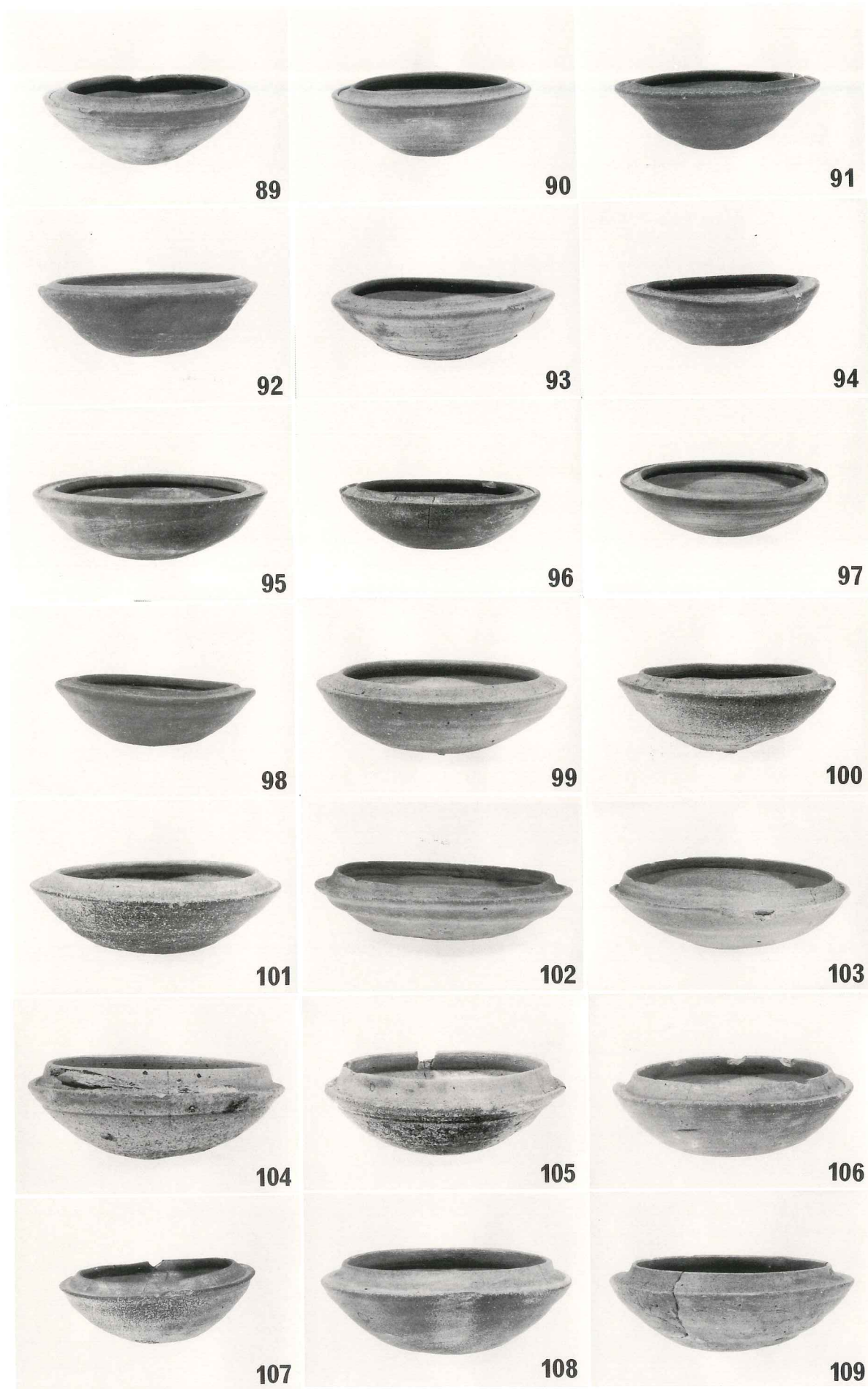
周辺遺跡出土の土器 (4)



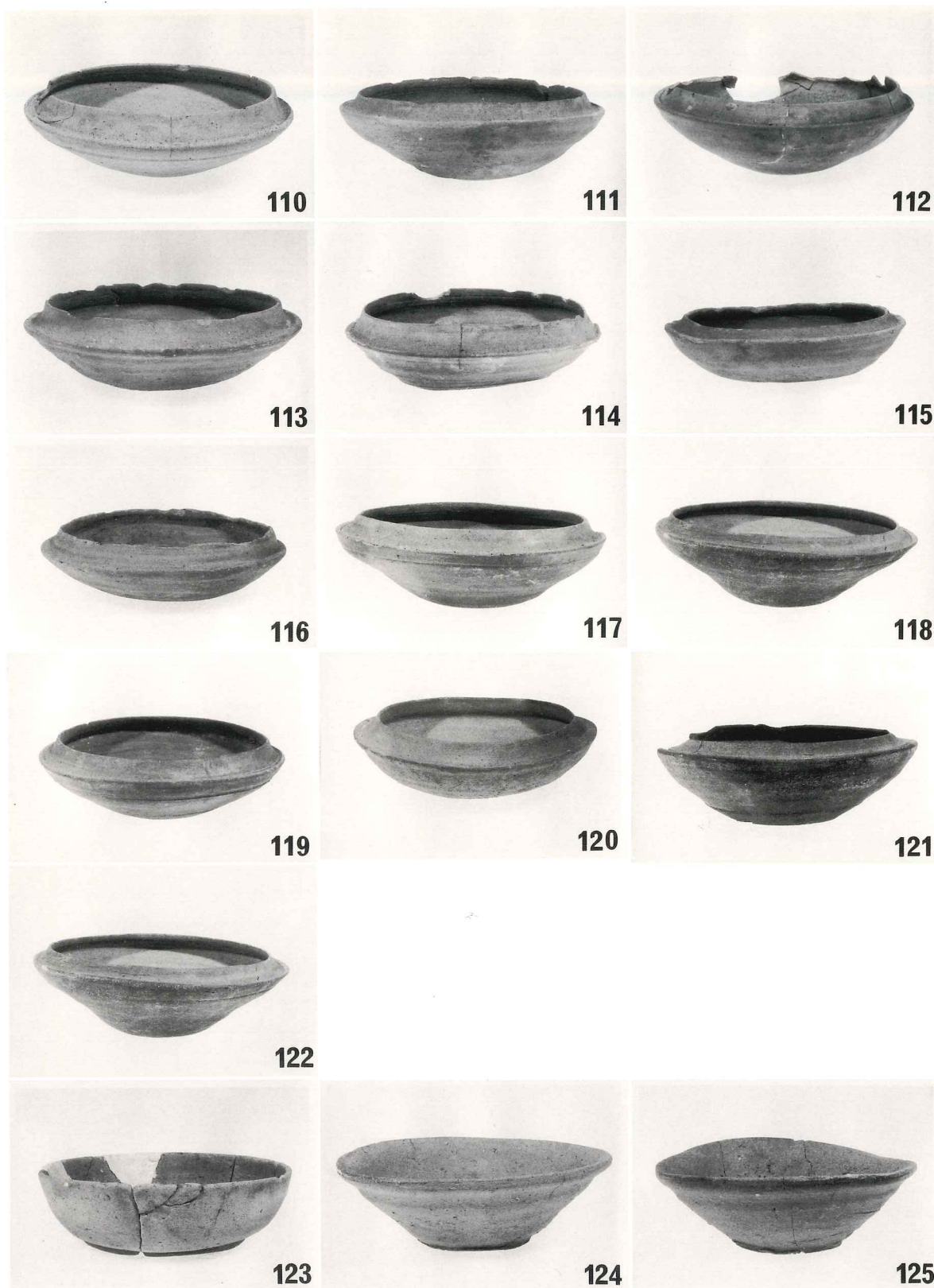
周辺遺跡出土の土器 (5)



周辺遺跡出土の土器 (6)



周辺遺跡出土の土器 (7)



周辺遺跡出土の土器 (8)

報告書抄録

ふりがな	い もり づか こ ふん ぐん							
書名	井 守 塚 古 墳 群							
副書名								
編集者名	永 井 義 博							
編集機関	袋井市教育委員会							
所在地	〒437 静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1 TEL 0538 - 43 - 2111							
発行年月日	1996年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 (-㎡)	調 査 原 因
い もり づか こ ふん ぐん 井守塚古墳群	し ず お か け ん ふ く ろ い し 静岡県袋井市 あ い の あ ざ し ぞ う が 愛野字地藏ヶ や 谷 3092-1 外37筆	22216	163	34° 44' 24"	138° 56' 15"	19941001 ↓ 19950331	2,000㎡	し尿 処理 施設 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
い もり づか こ ふん ぐん 井守塚古墳群	土器棺墓 群集墳	弥生時代 古墳時代 後期	土器棺1基 円墳4基	弥生土器 管玉 ガラス小玉 土師器 須恵器	古墳時代後期の群集墳の調査。かつて、小型の円墳群が原野谷川を眼下に望む丘陵の尾根上に確認されていた。昭和37年に東海道新幹線建設のため1号墳が発掘調査され、今回は残された4基の円墳の調査である。また、丘陵先端の1号墳のマウンドより土器棺1基も検出された。			

井守塚古墳群

1996年3月20日

編集 静岡県袋井市新屋1-1-1

発行 袋井市教育委員会 ©

TEL0538 (43) 2111

印刷 浜松市中沢町1-1

株式会社 開 明 堂